

第8回 社会抑うつ度調査 2024年9月分析結果 (2023年9月実施分も一部含む)

精神的健康、不公平感、新型コロナウイルス、
および政治・災害関連等の意識に関する調査

目次

1. 調査概要

1.1. 本調査の目的	3
1.2. 調査方法	4
1.3. 調査内容	5
1.4. 回答者の特性	6

2. 結果

2.1. 精神的健康の推移	17
2.2. 不公平感の推移	27
2.3. 新型コロナウイルス感染症に関する調査	33
2.4. その他の調査項目	46
2.4.1. 暑さ関連	47
2.4.2. 政治関連	54
2.4.3. 災害準備	60
2.4.4. 米不足に対する購買行動	64

3. 引用文献	67
---------	----

1. 調查概要

1.1. 本調査の目的

「社会抑うつ度調査」では、抑うつ、不安感、孤独感、人生満足度などを指標として、**人々の精神的健康の状態とその推移を把握するため**に定期的な測定を実施している。また、本調査では精神的健康に関連すると考えられる要因（性格特性や社会情勢など）を明らかにし、有効な対策や提言を行う目的で、さまざまな指標や属性項目を測定している。

第8回目となる今回の調査では、定期的に測定している「**精神的健康**」に加え、2021年9月から測定を開始した「**不公平感**」、依然として社会に大きな影響を及ぼしている「**新型コロナウイルス感染症**」に関する質問、さらに人々の政治意識や異常気象、防災情報、米不足のニュースなど近年の社会的な情勢を反映した項目を「**その他の調査項目**」として設定し、ウェブ調査を実施した。

1.2. 調査方法

調査概要

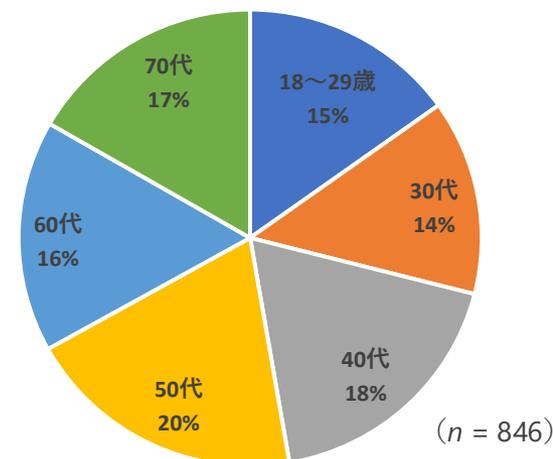
結果

- 調査方法：WEBアンケート
- 調査実施日：2024年9月30日（月）～2024年10月2日（水）
- 調査実施会社：アイブリッジ株式会社
- 調査対象者：同会社のアンケートプラットフォーム「Freeasy」のモニター登録者のうち、18～79歳の男女1003名。全国の地域・性別・年齢の人口分布（総務省統計局「人口統計」2023年10月1日現在人口（2024年4月12日発表）, <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2023np/index.html>）に合わせて調査対象者の割付を行った。調査に際し、サティスファイス検出項目を2問設け、いずれの質問にも指示通り回答した人のみを有効回答とした。
- 有効回答数：**846名**

※2020年4月から2021年11月までは毎月、2021年11月から2022年11月までは3か月に1回、株式会社ネオマーケティング「アイリサーチ」において調査を実施し、2023年9月と本調査はセルフ型アンケートツール「Freeasy」において調査を実施した。

回答者の性別・年齢

- 男性**422名**（49.9%）、女性**424名**（50.1%）
- 平均**50.2歳**（SD = 16.5）



1.3. 調査内容（調査項目一覧）

調査概要

結果

1. 人々の心理 ⇒詳細p. 18

- (1) 精神的健康 ...抑うつ／不安感／孤独感／人生満足度
- (2) 不公平感 ...社会から公平に扱われていないと思う経験、社会に対する不公平感。

2. 新型コロナウイルス感染症に関連する調査 ⇒詳細p. 34

- (1) コロナ関連行動 ...活動頻度・感染症対策
- (2) ワクチン接種状況 ...ワクチンの接種状況・ワクチン接種意欲

2023年9月に実施した調査データと比較可能なところは、分析に含めている

3. その他の調査項目 ⇒詳細p. 47, 54, 60, 64

- (1) 暑さ関連 ...夏の1日の時間配分・冷房の設定温度・健康への影響・暑さ対策など
- (2) 政治関連 ...政治的態度・政策への賛否・外国人居住者に対する寛容性
- (3) 災害準備 ...防災行動・南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動
- (4) 米不足に対する購買行動 ...購買行動の有無・購買行動の理由

4. 基本属性 ⇒詳細p. 7~15

性別・年齢・就労状況・婚姻状況・同居家族・主観的健康状態・最終学歴・昨年と比べた暮らし向き・世帯収入・主観的社会階層・性格特性（ビッグファイブ¹⁾、ダークトライアド²⁾）など

¹⁾ 人の性格を5つの特性（外向性・協調性・誠実性・神経症傾向・開放性）によって表す理論、およびそれによって捉えられる性格のこと。

²⁾ 反社会的とされる3つの性格特性（マキャベリアニズム・自己愛傾向・サイコパシー傾向）の総称。

1.4. 回答者の特性

1.4. 回答者の特性：就業状態

調査概要

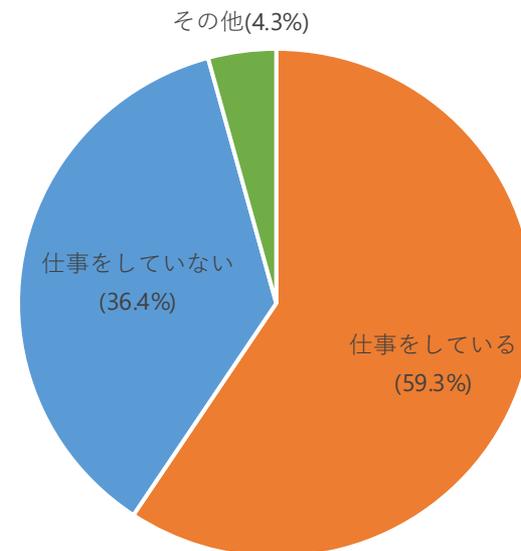
結果

(1) 就業状態

「あなたは現在どのような就業状態にありますか。仕事にはパートやアルバイトを含めてお答えください。」

今回の調査参加者の就業状態は下記の通りであった。

- 「仕事をしている¹⁾」 **59.3%** (502名)
- 「仕事をしていない²⁾」 **36.4%** (308名)
- 「その他」 **4.3%** (36名)



回答者の就業状態
(n = 846)

1) 家事や通学の傍らのアルバイト等を含む。

2) 育児休業等、一時的な休業を含む。

1.4. 回答者の特性：就業形態

調査概要

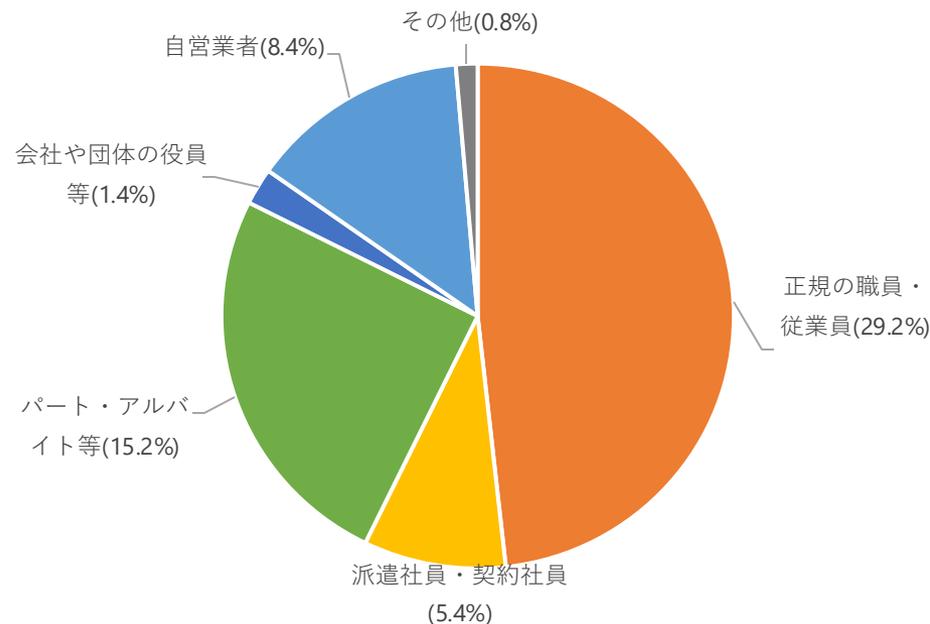
結果

(2) 就業形態

「あなたは、現在どのような就業形態でお仕事をしていますか。勤め先での一時休業や産前・産後休暇、育児休業、介護休業などで仕事を一時的に休んでいる方は、休業・休暇の前の就業形態をお答えください。」

今回の調査参加者においては、
下記の就業形態が多く見られた。

- 「正規の職員・従業員（29.2%）」
- 「パート・アルバイト等（15.2%）」
- 「その他（8.4%）」



回答者の就業形態

(n = 846)

1.4. 回答者の特性：婚姻状況

調査概要

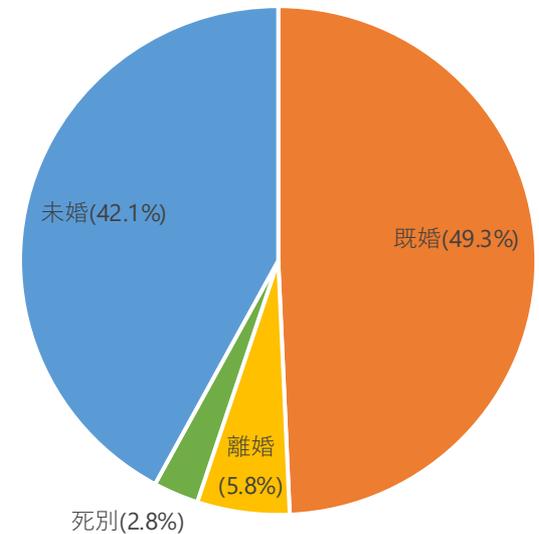
結果

(3) 婚姻状況

「あなたは現在結婚していらっしゃいますか。」

今回の調査参加者の婚姻状況は下記の通りであった。

- 「現在結婚している」 **49.3%** (417名)
- 「離婚した」 **5.8%** (49名)
- 「死別した」 **2.8%** (24名)
- 「結婚したことはない」 **42.1%** (356名)



回答者の婚姻状況
(n = 846)

1.4. 回答者の特性：同居者

調査概要

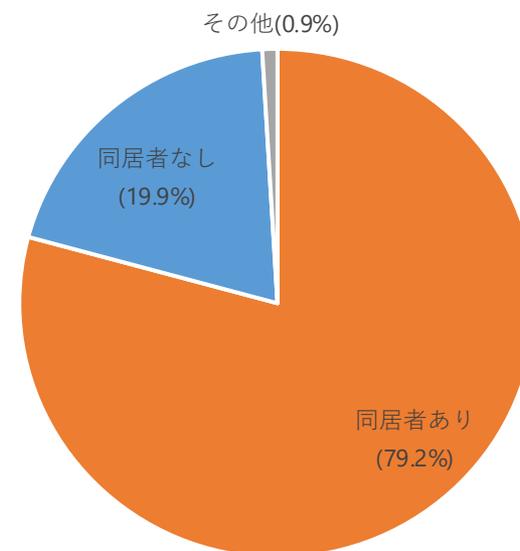
結果

(4) 同居者

「現在あなたと一緒に暮らしている方を以下の中からすべて選んでください。二世帯住宅など、同じ敷地内で別世帯と暮らしている場合も含めます。また、「配偶者」には、事実婚も含みます。」

今回の調査参加者の同居者は下記の通りであった。

- 「同居者あり¹⁾」 **79.2%** (670名)
- 「同居者なし²⁾」 **19.9%** (168名)
- 「その他」 **0.9%** (8名)



回答者の同居者

(n = 846)

1) 配偶者や子ども、親族を含む。

2) ペットのみとの同居も含む。

1.4. 回答者の特性：最終学歴

調査概要

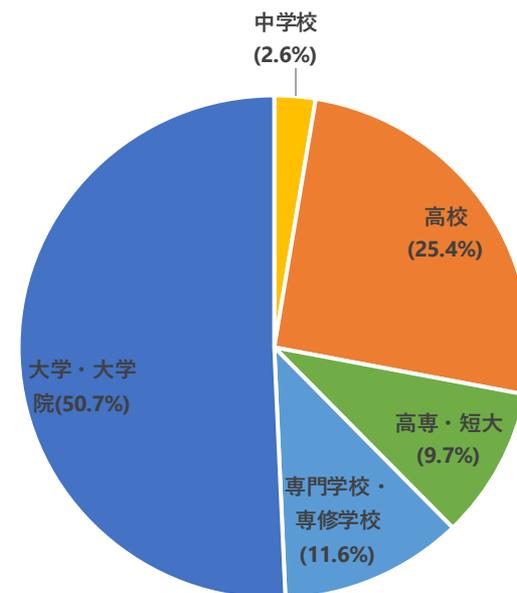
結果

(5) 最終学歴

「あなたが最後に卒業した（または現在通学している）学校は以下のどれにあたりますか。」

今回の調査参加者の最終学歴は下記の通りであった。

- 「中学／高校」 **28.0%** (237名)
- 「高専／短大／専門学校／専修学校」
..... **35.1%** (180名)
- 「大学・大学院」 **50.7%** (429名)



回答者の最終学歴
(n = 846)

1.4. 回答者の特性：主観的健康

調査概要

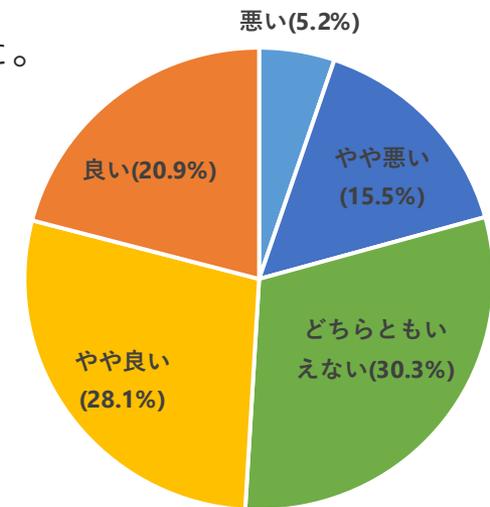
結果

(6) 主観的健康

「あなたの現在の健康状態は、いかがですか」

今回の調査参加者の主観的健康状態は下記の通りであった。

- 「良い／やや良い」 49.0% (415名)
- 「悪い／やや悪い」 20.7% (175名)
- 「どちらともいえない」 4.3% (36名)



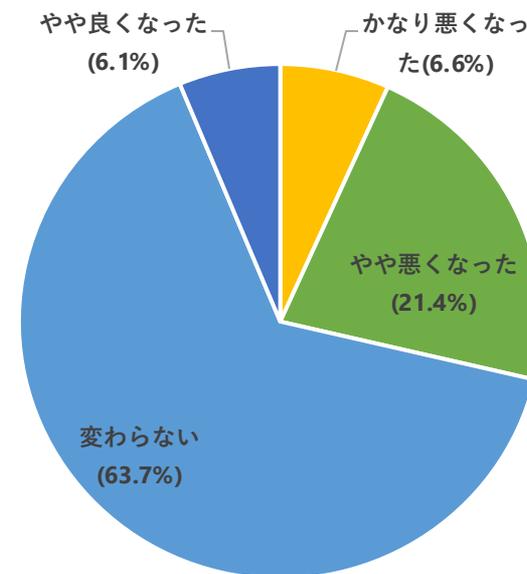
回答者の主観的健康
(n = 846)

(7) 1年前と比較した現在の暮らし向き

「現在のご自身の暮らし向きは、1年前と比べてどうなりましたか。以下から当てはまるものをお選びください。」

今回の調査参加者の1年前と比較した暮らし向きの変化は下記の通りであった。

- 「かなり悪くなった」 6.6% (56名)
- 「やや悪くなった」 21.4% (181名)
- 「変わらない」 63.7% (539名)
- 「やや良くなった」 6.1% (52名)
- 「かなり良くなった」 2.1% (18名)



回答者の暮らし向きの変化
(昨年と比較) (n = 846)

1.4. 回答者の特性：社会階層

調査概要

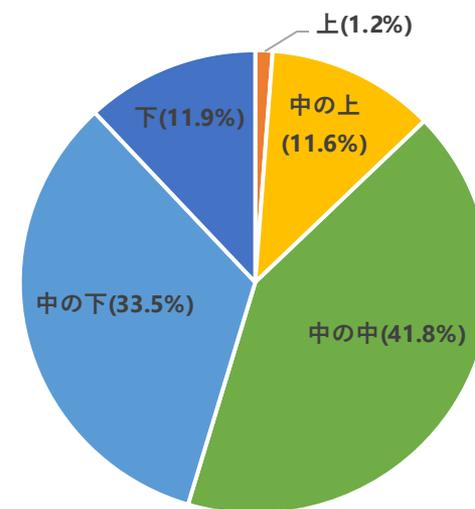
結果

(8) 主観的な社会階層

「かりに現在の日本の社会全体を、以下の5つの層に分けるとすれば、あなた自身は、どれに入りますか。」

今回の調査参加者の
主観的な社会階層は下記の通りであった。

- 「上」 1.2% (10名)
- 「中の上」 11.6% (98名)
- 「中の中」 41.8% (354名)
- 「中の下」 33.5% (283名)
- 「下の下」 11.9% (101名)



主観的な社会階層
(n = 846)

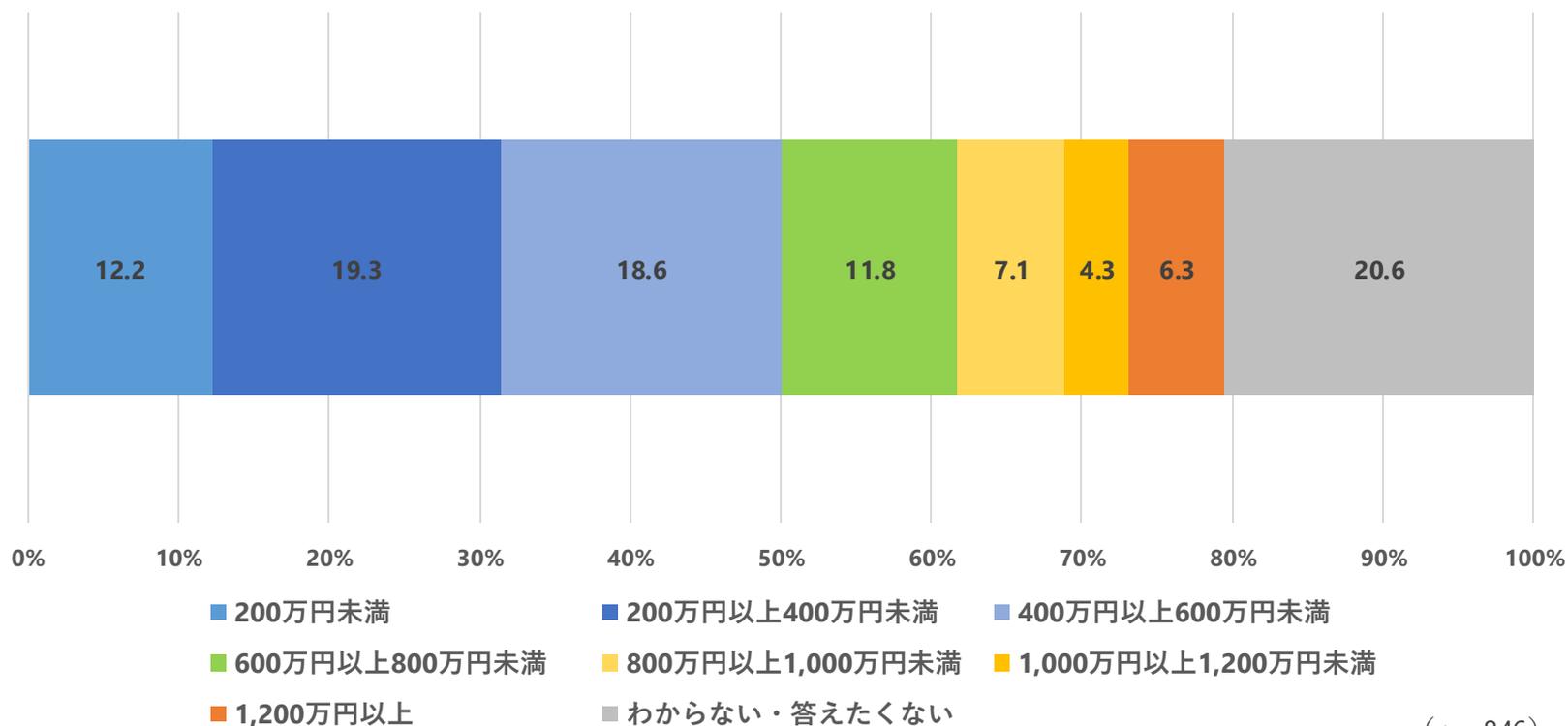
1.4. 回答者の特性：昨年の家庭収入

調査概要

結果

(9) 昨年の家庭収入

「昨年（2023年1月～12月）1年間のご家庭の収入はご家族全部あわせると、およそいくらくらいになりますか。ボーナスや臨時収入を含め、お答えください。税金を差し引く前の金額でお答えください。」



(n = 846)

2. 結果

2.1. 精神的健康の推移

2.1. 精神的健康：項目の詳細

調査概要

結果

〈精神的健康の測定指標〉

- 抑うつ ...PHQ-9 (村松, 2014)¹⁾ を使用
 - 不安障害 ...GAD-7 (村松, 2014)²⁾ を使用
 - 孤独感 ... 3 項目孤独感尺度 (Igarashi, 2019)³⁾ を使用
 - 人生満足度 ...SWLS (角野, 1995)⁴⁾ を使用
- ⇒ 症状評価が中等度 (10点) 以上の人の割合
ならびに合計値を指標とした
- ⇒ 平均値を指標とした

☆本調査は定期調査であるが、下記の期間ごとの調査会社等の調査方法が異なる。そのため、一概に結果を比較することはできないが、調査対象者の性別・年齢・居住地等の割付条件は同一の方法で設定しており、人々の精神的健康の長期的な変遷をみることはある程度可能であると考えられる。

調査期間①：2020年4月から2021年2月

調査期間②：2021年6月から2023年4月

調査期間③：2023年9月以降

¹⁾ PHQ尺度 (Patient Health Questionnaire; Spitzer et al., 1999) の日本語版から大うつ病性障害に関わる項目を抽出した尺度。

²⁾ PHQ尺度から不安障害に関わる質問項目を抽出して作成した尺度GAD-7 (Generalized Anxiety Disorder-7; Spitzer et al., 2006) の日本語版。

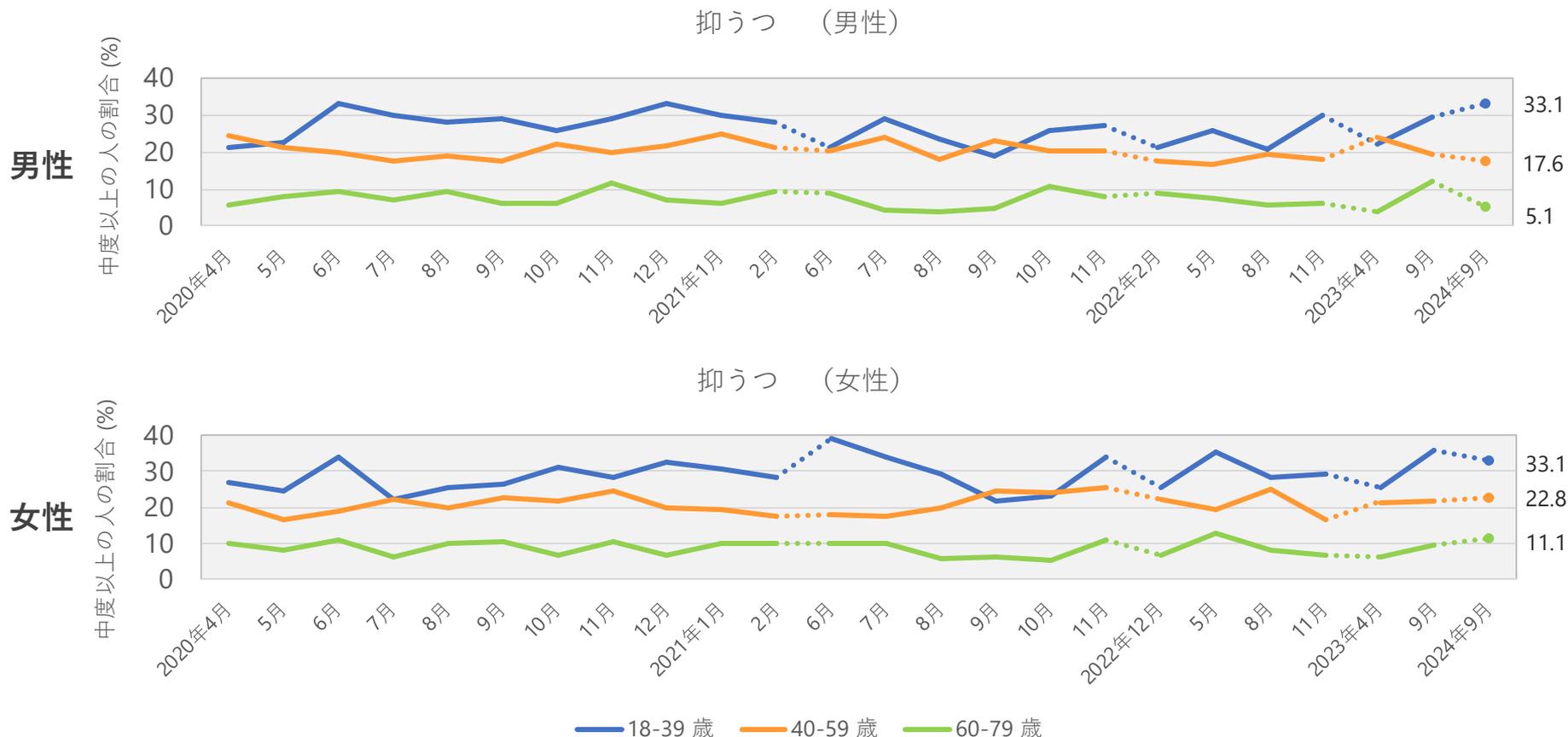
³⁾ TIL尺度 (Three-Item Loneliness Scale; Hughes et al., 2004) の日本語版。

⁴⁾ SWLS尺度 (Satisfaction With Life Scale; Diener et al. 1985) の日本語版 (角野, 1995) から5項目使用。

2.1. 精神的健康：抑うつ推移

調査概要

結果



- 男女ともに若年層（18-39歳）で抑うつの高い人が多く、高齢層（60-79歳）で少なかった。^{a)}
- 昨年9月調査と比較すると男性高齢層（60-79歳）においてのみ抑うつの高い人が少なくなっていることが示された。^{a)}
- 抑うつスコア全体 ($M = 4.94, SD = 5.82$) については年齢による有意な主効果が認められ、**高齢層の抑うつスコアは若年層および中年層よりも低い**ことが示された。一方、**性別による主効果や性別と年齢の交互作用効果は認められなかった**。^{b)}

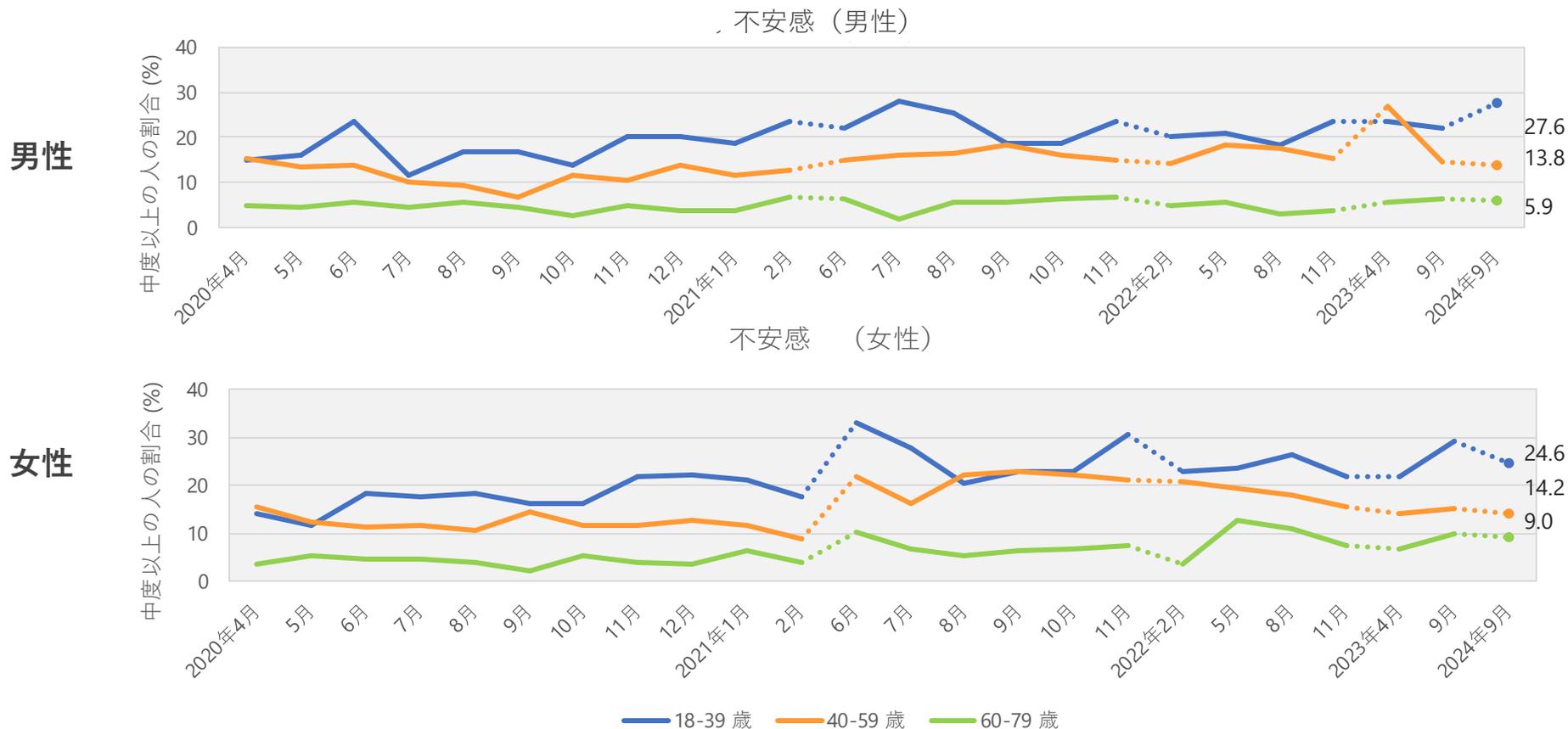
^{a)} χ^2 検定の結果1%水準で有意。

^{b)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

2.1. 精神的健康：不安感の推移

調査概要

結果



- 男女ともに若年層（18-39歳）で不安感の高い人が多く、高齢層（60-79歳）で少なかった。^{a)}
- 昨年9月調査と比較すると、いずれの性別、年齢層においても不安感の有意な変化は認められなかった。^{a)}
- 不安感スコア全体 ($M = 3.97, SD = 4.87$) については年齢による有意な主効果が認められ、**年齢が高いほど不安感スコアが低い**ことが示された。一方、**性別による主効果や性別と年齢の交互作用効果は認められなかった**。^{b)}

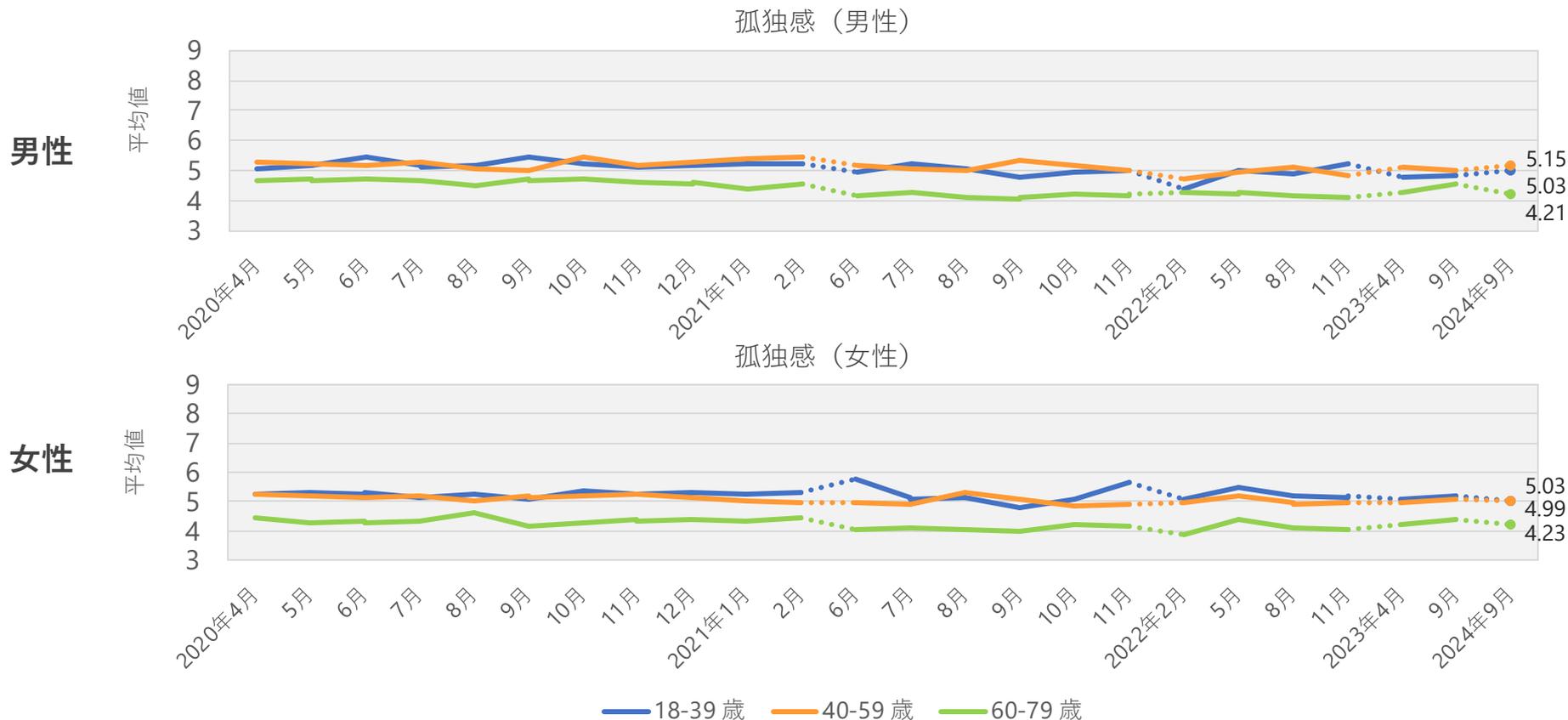
^{a)} χ^2 検定の分析の結果。

^{b)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

2.1. 精神的健康：孤独感の推移

調査概要

結果



- 孤独感 ($M = 1.59, SD = 0.63$) については年齢による有意な主効果が認められ、**高齢層（60-79歳）の孤独感は若年層（18-39歳）および中年層（40-59歳）よりも低い**ことが示された。一方、**性別による主効果や性別と年齢の交互作用効果は認められなかった。**^{a)}
- 昨年9月調査と比較すると、いずれの性別、年齢層においても孤独感の有意な変化は認められなかった。^{b)}

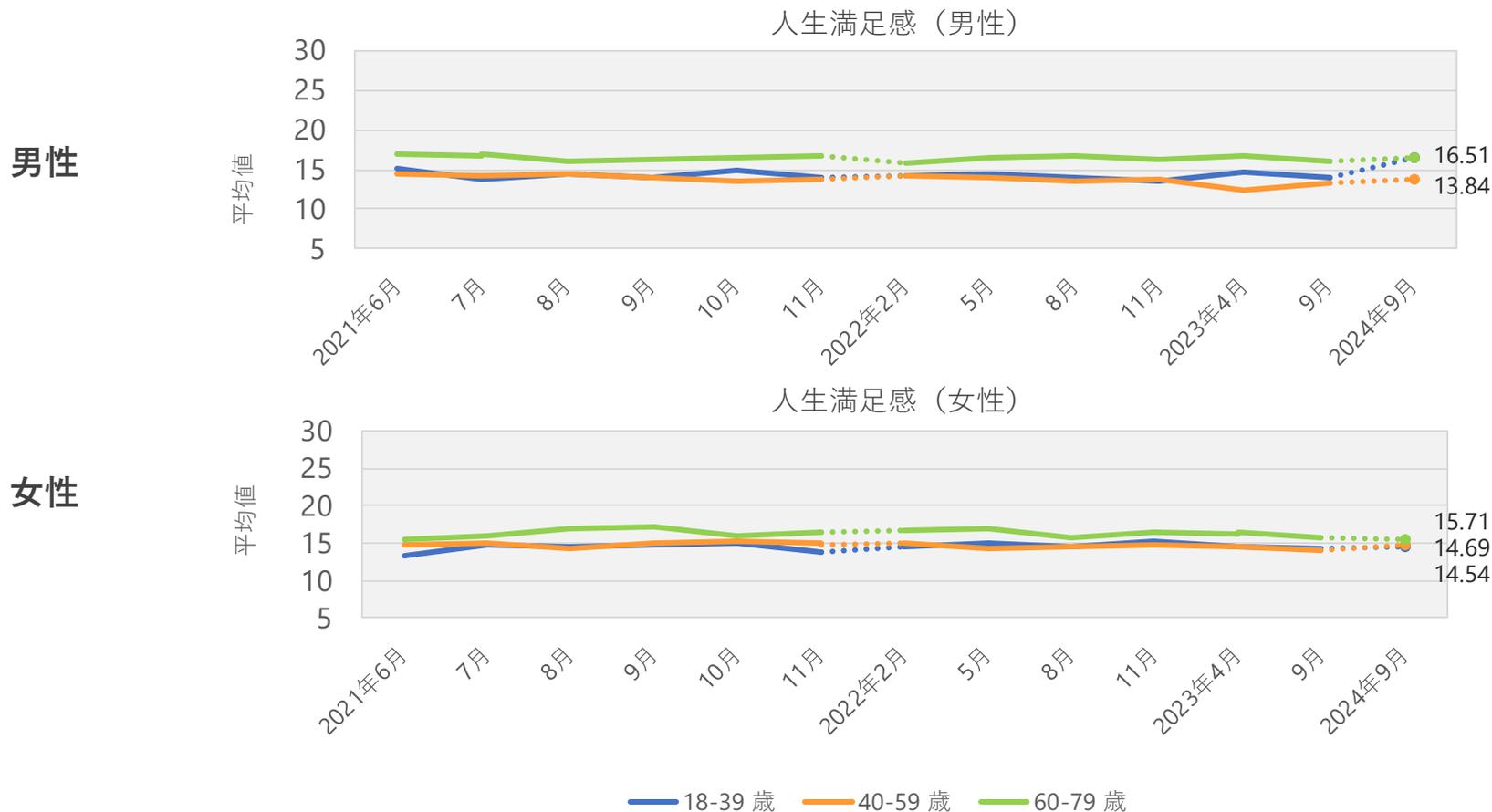
a) 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

b) t検定の分析の結果。

2.1. 精神的健康：人生満足感の推移

調査概要

結果



- 人生満足感 ($M = 3.05, SD = 1.13$) については年齢による有意な主効果が認められ、**中年層（40-59歳）の人生満足感**は**若年層（18-39歳）および高齢層（60-79歳）よりも低い**ことが示された。また、**この効果は性別との相互作用効果が有意であり、男性においてのみ見られた**。 ^{a)}
- 昨年9月調査と比較すると、若年男性においてのみ人生満足感の有意な増加が示された。 ^{b)}

^{a)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

^{b)} t検定の分析の結果。

2.1. 精神的健康：まとめ

調査概要

結果

年齢との関連

- これまでの調査と同様、**全体的に高齢層（60-79歳）の精神的健康は若年層（18-39歳）と中年層（40-59歳）よりも良い傾向が見られた。**

⇒ライフステージの違いによる一貫した傾向の可能性

若年層...将来への不安やキャリアの課題に直面

中年層...上記に加え家庭や仕事の負担の増加に伴う困難の増加

高齢層...仕事から引退して生活のストレスが軽減されている人が含まれる、など

性別との関連

- 性別による精神的健康の有意な差は今回の調査では示されず、**基本的に男女共通して、上記の年齢の効果が示された。**

※人生満足感に関しては**男性においてのみ中年層（40～59歳）が最も高い人生満足感**を示し、性別による、年齢層から人生満足感への影響の違いが見られた。

⇒（今回の調査では）性別から精神的健康への影響は小さいか、ほとんどない可能性が示唆された

2.1. 精神的健康：まとめ

調査概要

結果

時期との関連

- 全般的に前回調査（2023年9月）からの精神的健康の変化は認められなかった。

※男性高齢層（60-79歳）においてのみ、抑うつの高い人が少なくなっている傾向が示された。

⇒新型コロナウイルス感染症のパンデミック発生から数年が経ち、コロナが5類に引き下げられる¹⁾など、コロナ以前の生活が戻りつつある一方、精神的健康に変化はみられなかった。

考えられる要因（考察）

- コロナによる精神的健康への影響は依然として大きく、根強く残っているため。
- あるいは、コロナの影響は軽減しているが、それを打ち消す、もしくは上回る影響を及ぼす要因が現状の日本社会には存在している可能性。
- もしくは、確率論的な変動により今回の調査では変化を検出することができなかった可能性。

⇒これまでのデータを1つの大きな時系列データとして扱い、長期的な影響やパターンを検出する分析の可能性を検討すべきかもしれない

¹⁾ 2023（令和5）年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から5類に引き下げられた。
（参考：<https://www.mhlw.go.jp/stf/corona5rui.html>）

2.1. 精神的健康：まとめ

属性変数との関連^{a)}

婚姻状況

結婚している人はそれ以外の人より**人生満足感**が高い傾向が示された。

同居者の有無

一人暮らしの人はそれ以外のより**人生満足感**が高い傾向が示された。

主観的健康

主観的な健康状態が良いほど**抑うつ**、**不安感**、**孤独感**が低く、**人生満足感**が高い傾向が示された。

暮らし向きの変化

1年前と比較した現在の暮らし向きが「良くなった」と答えた人ほど**不安感**、**孤独感**が低く、**人生満足感**が高い傾向が示された。

主観的社会階層

主観的な社会階層が低いほど**抑うつ**、**不安感**、**孤独感**が高く、**人生満足感**が低い傾向が示された。

^{a)} 性別、年齢、就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴、主観的健康、昨年と比較した現在の暮らし向き、主観的な社会階層、世帯年収を説明変数、精神的健康の指標（抑うつ/不安感/孤独感/人生満足感）を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果。⇒付録3

2.1. 精神的健康：まとめ

調査概要

結果

性格特性との関連^{a)}

...TIPI-J尺度（日本語版Ten Item Personality Inventory; 小塩・阿部, 2012）10項目を使用して**ビッグファイブ¹⁾**を測定。

...DTDD-J尺度（日本語版Dark Triad Dirty Dozen; 田村他, 2015）12項目を使用して**ダークトライアド²⁾**を測定。

外向性の高い人は**孤独感が低く**、**人生満足感が高い**傾向が示された。

協調性の高い人は**抑うつ・不安感・孤独感が低い**傾向が示された。

勤勉性の高い人は**抑うつ・孤独感が低く**、**人生満足感が高い**傾向が示された。

神経症傾向の高い人は**抑うつ・不安感・孤独感が高く**、**人生満足感が低い**傾向が示された。

※開放性およびダークトライアドと精神的健康指標の間の関連はほぼ無相関であった。

※基本的に1%水準で有意な相関関係が示された。上記においては係数の絶対値が.30以上の結果を報告。

^{a)} スピアマンの順位相関分析の結果。⇒付録2

¹⁾ 人の性格を5つの特性（外向性・協調性・誠実性・神経症傾向・開放性）によって表す理論、およびそれによって捉えられる性格のこと。

²⁾ 反社会的とされる3つの性格特性（マキャベリアニズム・自己愛傾向・サイコパシー傾向）の総称。

2.2. 不公平感の推移

2.2. 不公平感の推移：項目の詳細

調査概要

結果

〈不公平感の測定指標〉

- 個人的不公平感

…**自分ならびに自分と同じ世代・性別の人が社会から公平に扱われていないと思うか**を2項目で尋ねた（例「あなたは、自分自身が公平な扱いを受けていないと感じることがありますか」）。

- 社会的不公平感

…**日本社会および世界は公平な場ではないと思うか**を2項目で尋ねた。（例「あなたは、日本社会は公平な場でないと感じることがありますか」）。

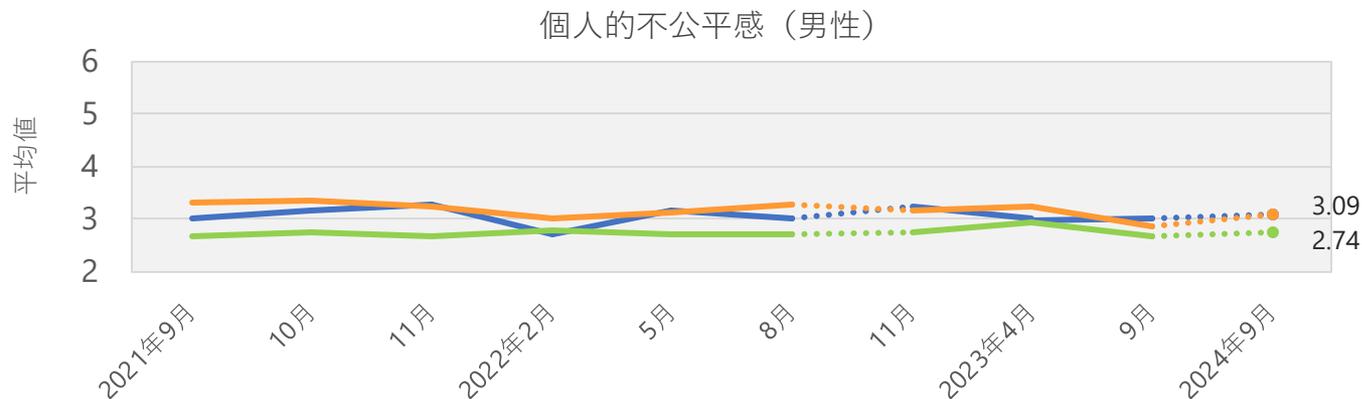
☆不公平感は第3回社会抑うつ度調査（2021年9月）から上記の項目で定期的な測定を開始。

2.2. 不公平感：個人的不公平感の推移

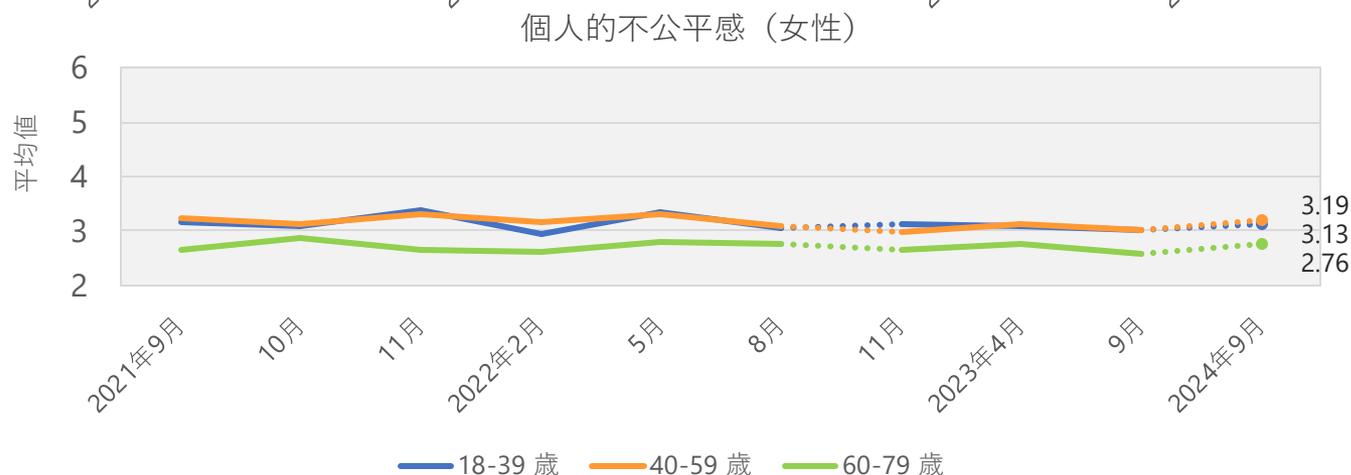
調査概要

結果

男性



女性



- 個人的不公平感について、年齢による有意な主効果が認められ、**高齢層（60-79歳）の個人的不公平感は若年層（18-39歳）および中年層（40-59歳）よりも低い**ことが示された。一方、**性別による主効果や性別と年齢の交互作用効果は認められなかった。**^{a)}
- 昨年9月調査と比較すると、いずれの性別、年齢層においても個人的不公平感の有意な変化は認められなかった。^{b)}

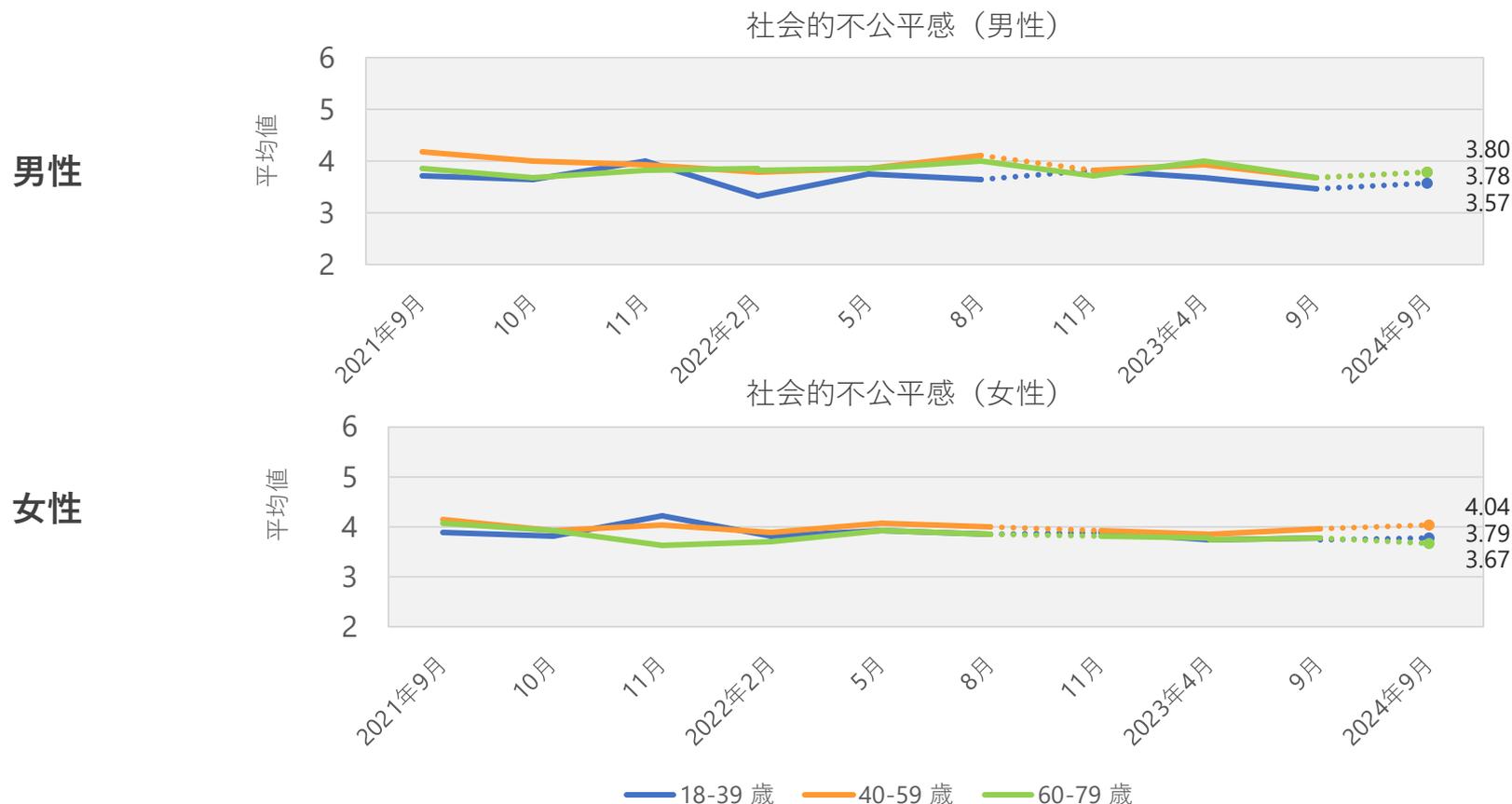
^{a)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

^{b)} t検定の分析の結果。

2.2. 不公平感：社会的不公平感の推移

調査概要

結果



- 社会的不公平感について、年齢や性別による主効果は認められず、性別と年齢の交互作用効果も認められなかった。 a)
- 昨年9月調査と比較すると、いずれの性別、年齢層においても個人的不公平感の有意な変化は認められなかった。 b)

a) 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

b) t検定の分析の結果。

2.2. 不公平感：まとめ

年齢との関連

- 年齢層によって個人的不公平感の程度は異なっていた。高齢層（60-79歳）の個人的不公平感は若年層（18-39歳）と中年層（40-59歳）よりも低い傾向が見られた。
- 一方、社会的不公平感については、年齢層による違いは示されなかった。

☆社会的不公平感は「日本社会」や「世界」といったより大きな枠組みでの不公平感を問う抽象度の高い項目であった一方、個人的不公平感具体的な感覚に基づいて回答することが可能な項目であった。

⇒そのため、個人的不公平感においてのみ年齢層の違いによる不公平感のちがいが検出されたのではないか。

性別との関連

- 性別による個人的、社会的不公平感の有意な差は今回の調査では示されなかった。

時期との関連

- 前回調査（2023年9月）からの個人的、社会的不公平感の変化は示されなかった。

⇒性別によって感じている不公平感の違いや前回調査からの変動は示されなかったものの、年齢層のちがいによる不公平感のギャップの存在が示され、世代間の対立につながり得る世代間格差が人々のなかで認識されている可能性が示唆された。

2.2. 不公平感：まとめ

属性変数との関連^{a)}

主観的健康

主観的な健康状態が良いほど、**個人的不公平感と社会的不公平感が低い**傾向が示された。

暮らし向きの変化

1年前と比較した現在の暮らし向きが「良くなった」と答えた人ほど、**個人的不公平感が低い**傾向が示された。

主観的社会階層

主観的な社会階層が低い人ほど、**個人的不公平感と社会的不公平感が低い**傾向が示された。

☆就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴の高さ、世帯年収から不公平感への統計的に有意な関連は示されなかった。

精神的健康との関連^{b)}

個人的不公平感、社会的不公平感いずれにおいても不公平感が高いほど抑うつ、不安感、孤独感が高く、人生満足感が低い傾向が示された。

^{a)} 性別、年齢、就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴、主観的健康、昨年と比較した現在の暮らし向き、主観的な社会階層、世帯年収を説明変数、不公平感（個人的/社会的）を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果有意であった結果を報告。⇒付録4

^{b)} スピアマンの順位相関分析の結果。⇒付録2

2.3. 新型コロナウイルス感染症 関連行動の推移

2.3. コロナ関連：項目の詳細

調査概要

結果

新型コロナウイルス感染症

- コロナ関連行動 ...活動頻度¹⁾・感染症対策²⁾
- ワクチン接種状況 ...ワクチンの接種状況・ワクチン接種意欲

☆基本的に前回調査までのコロナ関連の項目と同じ項目を測定したが、今回の調査（2024年9月）においてはアンケート全体の調査項目の増加に伴い**参加者の回答負担の軽減、ならびに項目の改善**を目的として**一部の項目の見直し（削除や表現の修正など）を行った。**

※見直しの結果、複数の項目が1つの項目に集約された場合は平均得点を分析に用いた。

～参考情報～

- 全額公費によるコロナワクチンの接種が2024年3月31日で終了し、2024年4月1日以降の任意接種が原則有料となった。³⁾

¹⁾ 第7回調査までの設問名「コロナ禍での活動」から項目の修正等に伴い名称を「活動頻度」へ変更。

²⁾ 第7回調査までの設問名「リスク対策」から項目の修正等に伴い名称を「感染症対策」へ変更。

³⁾ 厚生労働（2024）：新型コロナワクチンQ&A 「定期接種の対象者、接種の方法、注意など」（参考：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_qa.html#3）

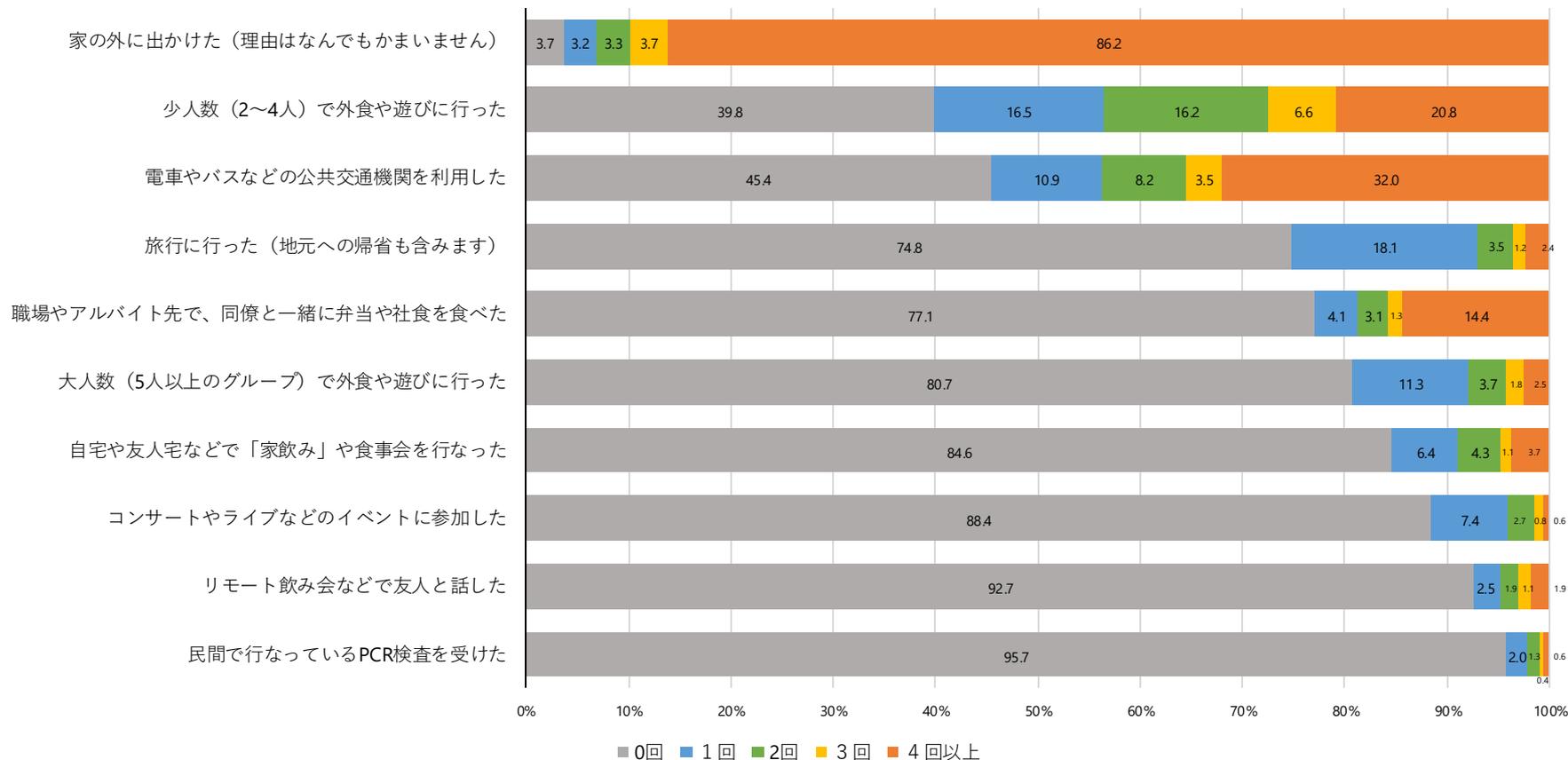
2.3. コロナ関連：活動頻度

調査概要

結果

(1-1) 活動頻度の回答割合

「この1ヶ月間、あなたは以下のようなことをどのぐらいの回数行いましたか。」



⇒ **60.3%**の人が1回以上「少人数（2～4人）で外食や遊びに行った」と回答している一方、1回以上「リモート飲み会などで友人と話した」と回答した人は**7.4%**であった。
※1回以上「民間で行なっているPCR検査を受けた」と回答した人は4.3%。

2.3. コロナ関連：活動頻度

調査概要

結果

(1-2) 活動頻度の推移¹⁾

前回の調査（2023年9月）		→	今回の調査（2024年9月） ²⁾	
項目	平均値（標準偏差）		項目	平均値（標準偏差）
家の外に出かけた（理由はなんでもかまいません）	4.65（1.01）	→	家の外に出かけた（理由はなんでもかまいません）	4.65（0.96）
同居している人と外食した	2.07（1.43）	}	少人数（2～4人）で外食や遊びに行った	2.52（1.56）
同居していない人を含む2～4人で外食した	1.86（1.30）			
同居している人と遊びに行った	1.82（1.29）			
同居していない人を含む2～4人で遊びに行った	1.47（0.99）			
同居していない人を含む5人以上のグループで外食した	1.30（0.77）	}	大人数（5人以上のグループ）で外食や遊びに行った	1.34（0.84）
同居していない人を含む5人以上のグループで遊びに行った	1.17（0.62）			
リモート飲み会などで友人と話した	1.13（0.61）	→	リモート飲み会などで友人と話した	1.17（0.69）
自宅や友人宅などで「家飲み」や食事会を行なった	1.32（0.95）	→	自宅や友人宅などで「家飲み」や食事会を行なった	1.33（0.90）
職場の同僚などと、職場で弁当や社食を共に食べた	1.67（1.43）	→	職場やアルバイト先で、同僚と一緒に弁当や社食を食べた	1.72（1.44）
コンサートやライブなどのイベントに行った	1.20（0.67）	→	コンサートやライブなどのイベントに参加した	1.18（0.57）
カラオケに行った	1.17（0.65）			
旅行に行った（地元への帰省も含みます）	1.39（0.85）	→	旅行に行った（地元への帰省も含みます）	1.38（0.81）
電車やバスなどの公共交通機関を利用した	2.49（1.73）	→	電車やバスなどの公共交通機関を利用した	2.66（1.77）
混雑した電車やバスに乗った	2.01（1.57）			
民間で行なっているPCR検査を受けた	1.10（0.49）	→	民間で行なっているPCR検査を受けた	1.08（0.44）

n = 861

n = 846

⇒少人数から大人数での外食や遊びで出かける活動のみ、前回から有意な増加が見られた。

¹⁾ 推移を見る際、集約した項目については平均値を分析に用いた。

²⁾ 2023年9月調査を「0」、2024年9月調査を「1」とした実施時期ダミーを説明変数、外出頻度の各項目を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果（n = 1707）。昨年9月よりも有意に平均値が**増加している項目はオレンジ**、**減少している項目はブルー**で示した。⇒付録5

(1-3) 性別・年齢の効果^{a)}

- 外出頻度そのもの（「家の外に出かけた（理由はなんでもかまいません）」）については**男性の方が女性よりも少なく、年齢が高いほど増加する傾向が示された。**
- また、交互作用効果が正の方向で有意であり、**年齢が高くなるほど男性と女性の外出頻度における差が縮まり、男性の外出頻度が増加する傾向が示された。**
- 一方で、個々の活動項目については、**全体的に女性よりも男性の方が頻度が高い傾向が示された。**
※ただし、「少人数（2～4人）で外食や遊びに行った」については女性の方が多く、コンサートやライブへの参加、旅行、公共交通機関の利用については性別の有意な効果は認められなかった。
- **また、全体的に年齢が高いほど活動頻度は低い傾向が示された。**
※ただし、「少人数（2～4人）で外食や遊びに行った」と「自宅や友人宅などで「家飲み」や食事会を行なった」については年齢の有意な効果は認められなかった。
- **PCR検査の項目（「民間で行なっているPCR検査を受けた」）については男性の方が頻度が多く、年齢が高いほど少なくなる傾向が示された。**この項目に対する性別と年齢の交互作用効果は負の方向で有意であり、つまり**年齢が高くなるほど男性の民間のPCR検査を受けた回数が減少していた。**

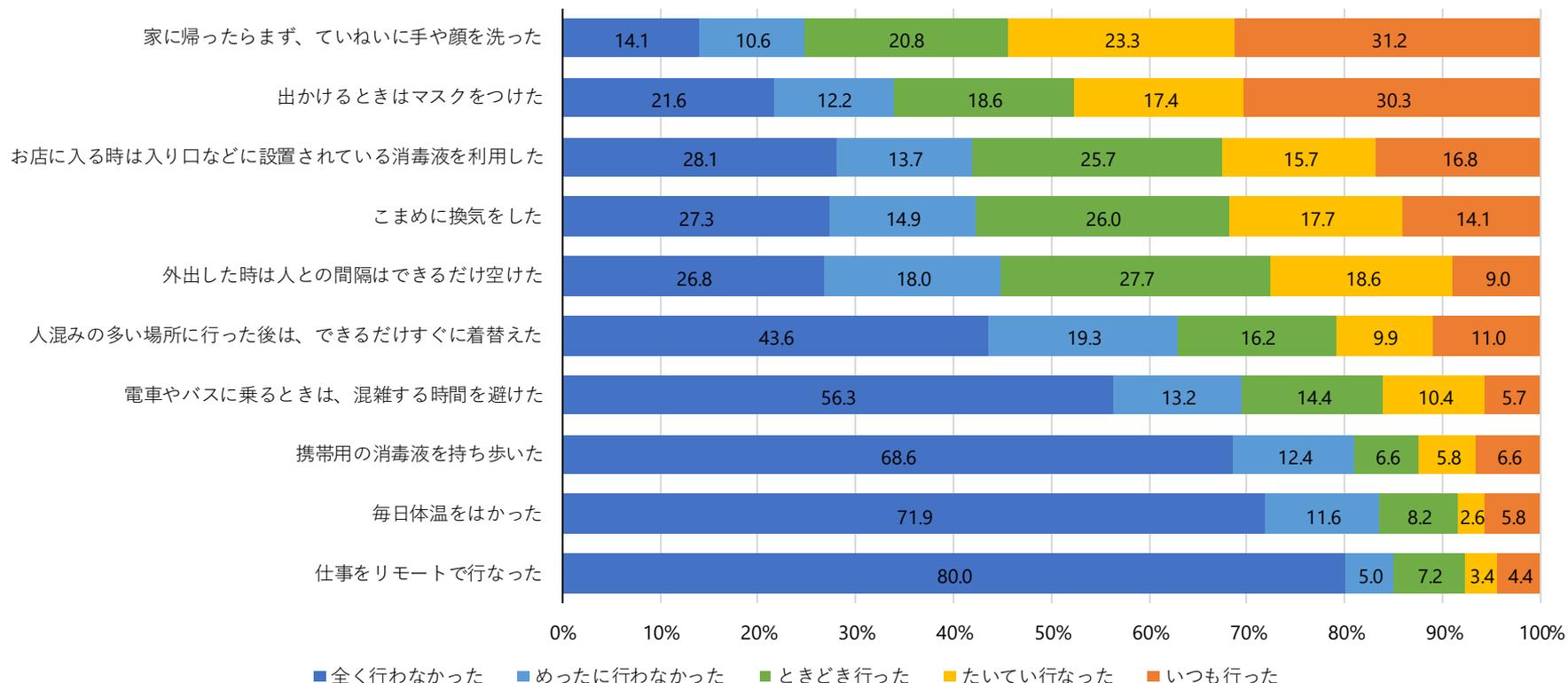
2.3. コロナ関連：感染症対策

調査概要

結果

(2-1) 感染症対策の回答割合

「この1ヶ月間の生活を振り返って、あなたは以下のようなことを行っていましたか。」



⇒帰宅後の手・顔洗い、マスク着用、設置されている消毒液の利用などは過半数の人が「ときどき」～「いつも」行っていると回答。

2.3. コロナ関連：感染症対策

調査概要

結果

(2-2) 感染症対策の推移¹⁾

前回の調査 (2023年9月) ²⁾		→	今回の調査 (2024年9月) ³⁾	
項目	平均値 (標準偏差)		項目	平均値 (標準偏差)
出かけるときはマスクをつけた	3.77 (1.39)	→	出かけるときはマスクをつけた	3.22 (1.52)
自分用の携帯消毒液を持ち歩いた	1.92 (1.42)	}	携帯用の消毒液を持ち歩いた	1.70 (1.22)
携帯用の空間除菌グッズを持ち歩いた	1.56 (1.1)			
店舗入り口などに設置されている消毒液を利用した	3.24 (1.46)	→	お店に入る時は入り口などに設置されている消毒液を利用した	2.79 (1.43)
家に帰ったらまず、ていねいに手や顔を洗った	3.60 (1.41)	→	家に帰ったらまず、ていねいに手や顔を洗った	3.47 (1.39)
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替えた	2.43 (1.50)	→	人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替えた	2.25 (1.39)
人との間隔はできるだけ空けた	2.95 (1.36)	→	外出した時は人との間隔はできるだけ空けた	2.65 (1.29)
仕事をリモートで行なった	1.48 (1.10)	→	仕事をリモートで行なった	1.47 (1.06)
電車やバスに乗るときは、混雑する時間を避けた	2.01 (1.37)	→	電車やバスに乗るときは、混雑する時間を避けた	1.96 (1.28)
こまめに換気をした	3.23 (1.34)	→	こまめに換気をした	2.76 (1.39)
毎日体温をはかった	1.90 (1.27)	→	毎日体温をはかった	1.59 (1.12)
自分の部屋や職場に空間除菌や光触媒などの装置を設置していた	1.61 (1.17)			

n = 861

n = 846

⇒特にマスク着用やこまめな換気、設置型消毒液の利用が有意に減少していた。

¹⁾ 推移を見る際、集約した項目については平均値を分析に用いた。

²⁾ 2023年9月の調査においては質問に際し注意書きを付記した（「新型コロナウイルス感染症への対策として有効性のないもの・疑わしいものも含まれています。」）

³⁾ 2023年9月調査を「0」、2024年9月調査を「1」とした実施時期ダミーを説明変数、感染症対策の各項目を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果（n = 1707）。昨年9月よりも有意に平均値が増加している項目はオレンジ、減少している項目はブルーで示した。⇒付録7

(2-3) 性別・年齢の効果^{a)}

- 性別と年齢の効果を検討したところ、「毎日体温をはかった」以外のすべての項目において性別と年齢のいずれか、もしくは両方の有意な効果が示された。
- **全体的に女性の感染症対策の頻度は男性よりも有意に多かった。**
※ただし、リモートワーク「仕事はリモートで行った」については男性の方が女性よりも頻度が有意に多かった。
- 感染症対策のうち、いくつかの項目（マスク着用、設置型消毒液の利用、電車やバスの混雑時間を避ける、こまめな換気）については年齢が高いほど頻度が有意に多く、「仕事をリモートで行なった」については年齢が高いほど頻度が有意に少なかった。
- 「電車やバスに乗るときは、混雑する時間を避けた」においてのみ、性別と年齢の交互作用効果が負の方向で有意であった。つまり、**女性は男性よりも電車やバスの混雑時間を避ける頻度が多く、男女ともに年齢が高いほど頻度が多い傾向があったが、年齢が高くなるほどその傾向は男性でより弱くなる**ことが示された。

^{a)} 性別、年齢、性別*年齢の交互作用項を説明変数、感染症対策の各項目を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果。⇒付録8

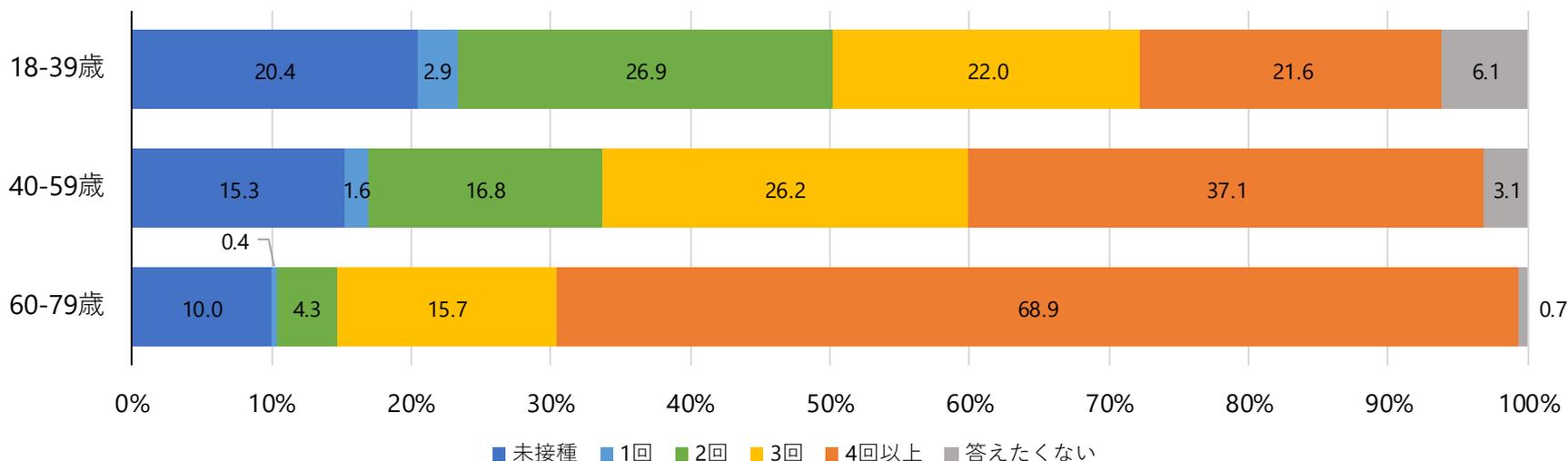
2.3. コロナ関連：ワクチンの接種状況

調査概要

結果

(3) ワクチン接種回数

「あなたは、新型コロナウイルス対策のためのワクチンを接種しましたか。」



- 参加者全体だと**43.1%**の人がコロナワクチンを**4回以上接種**していた。
- 年代で比較すると**若年層（18-39歳）**および**中年層（40-59歳）**は、**高齢層（60-79歳）**よりもワクチン接種回数が有意に少なかった。^{a)}
- ワクチン接種回数に男女差は認められなかったが、若年層においては交互作用効果が有意であり、**若年層において女性は男性と比べてワクチン接種回数が少ない**ことが示された。^{a)}

^{a)} 性別、年齢層、性別*年齢層の交互作用項を説明変数、ワクチン接種回数を目的変数とする順序ロジスティック回帰分析の結果。
※「答えたくない」と回答した人は分析から除外（n = 819）⇒付録9

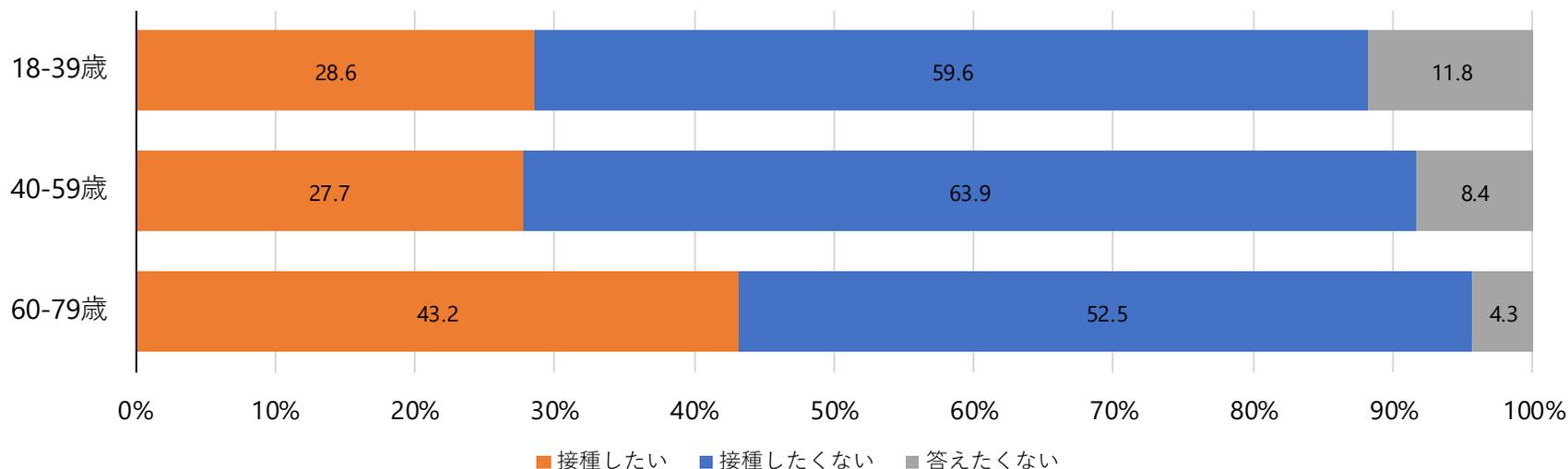
2.3. コロナ関連：ワクチン接種意欲

調査概要

結果

(4) ワクチン接種意欲

「今後、新型コロナウイルスのワクチンを接種する機会があれば、接種したいですか。」



- 参加者全体だと今後もコロナワクチンを「**接種したい**」と回答した人は全体の**33.1%**であり、「**接種したくない**」と回答した人は全体の**58.9%**であった。
- 年代で比較すると**若年層（18-39歳）および中年層（40-59歳）は、高齢層（60-79歳）よりもワクチンを「接種したい」と回答する人が有意に少なかった。**^{a)}
- また、女性よりも男性の方が「接種したい」と有意に多く回答していたが、性別と年齢層の交互作用効果は非有意であり、この傾向は年齢層によって変化しないことが示唆された。^{a)}

^{a)} 性別、年齢層、性別*年齢層の交互作用項を説明変数、ワクチン接種意欲を目的変数とする順序ロジスティック回帰分析の結果。
※「答えたくない」と回答した人は分析から除外 (n = 778) ⇒付録9

(1) 活動頻度

- 性別と年齢によって、今回測定したさまざまな活動の頻度は異なっていた。
☆一部の項目については女性の方が頻度が高かったが、全体的に男性の方が頻度が高かった。
☆基本的に年齢が高いほど活動頻度は低くなる傾向が見られた。
- 前回（2023年9月調査）と比較すると、特に少人数での外食や遊びに出かける活動のみ有意に増加していた。それ以外の項目については有意な頻度の変化は認められなかった。
- PCR検査の項目（「民間で行なっているPCR検査を受けた」）についても、前回からの有意な変化は認められなかった。

コロナ禍で生まれた新たな習慣（リモート飲み会）だけではなく、コロナ禍において抑制されていた活動（コンサートやライブ、旅行など）にも大きな変化は見られなかった。

⇒パンデミック発生直後の一時的な減少と増加を経て、現在は一定の水準で落ち着いている可能性。

(2) 感染症対策

- 性別と年齢によって、実施している感染症対策の頻度は異なっていた。

☆全体的に女性の方が男性よりも感染症対策の頻度は高かった。

☆いくつかの項目においては年齢が高いほど頻度が高い傾向が示された。

⇒女性の方がリスク回避の傾向が高いことや、年齢によるコロナに罹患した場合の重症化のリスクの違いを踏まえると整合的。

- 今回の調査においては帰宅後の手・顔洗い、マスク着用、設置されている消毒液の利用などは過半数の人が「ときどき」～「いつも」行っていると回答。
- ただ、前回（2023年9月調査）と比較すると全体的に感染症対策の頻度は減少している（特にマスク着用やこまめな換気、設置型消毒液の利用）。

⇒人々の感染対策に対する意識が以前と比べて低下してきている。

2.3. コロナ関連：まとめ

(3) ワクチン接種回数

- 若年層（18-39歳）および中年層（40-59歳）は、高齢層（60-79歳）よりもワクチン接種回数が有意に少なかった。
- ワクチン接種回数に対する性別の効果は認められなかったが、若年層においてのみ、女性は男性よりワクチン接種回数が少なかった。

(4) ワクチン接種意欲

- 若年層（18-39歳）および中年層（40-59歳）は、高齢層（60-79歳）よりもワクチンを「接種したい」と回答する人が有意に少なかった。
- 女性よりも男性の方が「接種したい」と有意に多く回答していた。

⇒年齢による接種意欲のちがいはコロナに罹患した場合の重症化のリスクのちがいによって説明され得る。

☆全額公費によるコロナワクチンの接種が2024年3月31日で終了し、2024年4月1日以降の任意接種が原則有料となったこと¹⁾も関係しているかもしれない。

¹⁾ 厚生労働（2024）. 新型コロナワクチンQ&A 「定期接種の対象者、接種の方法、注意など」（参考：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_qa.html#3）

2.4. その他の調査項目

2.4. その他：項目の詳細

調査概要

結果

その他の調査項目

- ・ 暑さ関連 ...夏の1日の時間配分・冷房の設定温度・健康への影響・暑さ対策など
- ・ 政治関連 ...政治的態度・政策への賛否・外国人居住者に対する寛容性
- ・ 災害準備 ...防災行動・南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動
- ・ 米不足に対する購買行動 ...購買行動の有無・購買行動の理由

☆2023年9月（前回調査）と2024年9月（今回調査）において「暑さ関連」項目を測定。

※一部項目の表現は異なる

～参考情報～

- ・ 2023年の年平均気温は全国的に高く、特に北・東・西日本で記録的な高温（1946年の統計開始以降最も高い年平均気温）¹⁾ となった。
- ・ しかし、2024年はその2023年の記録を大きく上回り、統計開始以降最も高い年平均気温となる見込み。²⁾

⇒猛暑に対応する人々の生活や健康への影響、政府に求める対応策の要望を調査する

¹⁾ 気象庁「2023年（令和5年）の天候のまとめ」（2024年1月4日発表）<https://www.jma.go.jp/jma/press/2401/04b/tenko2023.html>

²⁾ 気象庁「2024年（令和6年）の天候のまとめ（速報）」（2024年12月25日発表）https://www.jma.go.jp/jma/press/2412/25a/20241225_2024tenkou.html

2.4. その他：暑さ関連

調査概要

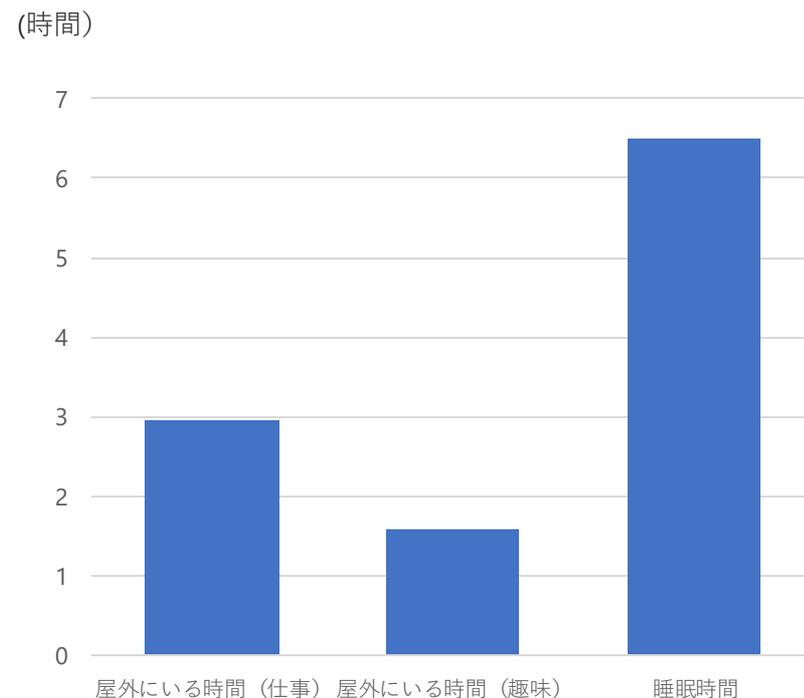
結果

(1) 夏の1日の時間配分

「この夏のあなたの生活について、平日の1日のうち、それぞれどれくらいの時間を使っていたかを教えてください
(そのような時間がない場合は「0」とご記入ください)」

結果：

- 「仕事などでやむをえず屋外にいる時間」
..... 平均 **3.0** 時間 ($SD = 3.9$)
- 「趣味や遊びのために屋外にいる時間」
..... 平均 **1.6** 時間 ($SD = 2.4$)
- 「1日の睡眠時間」
..... 平均 **6.5** 時間 ($SD = 1.3$)



夏の1日の時間配分

2.4. その他：暑さ関連

調査概要

結果

(2) 冷房の設定温度

「冷房の設定温度について伺います。あなたのご自宅や職場での冷房の設定温度を教えてください。
(職場などが無い場合や、設定温度が分からない場合は、「0」とご回答ください)」

2024年9月調査の集計データ

質問	回答者数	平均（標準偏差）
<u>自宅で設定している温度</u>	715名	26.8 度 (1.8)
職場で設定されている温度	446名	26.0 度 (2.1)
<u>自分が快適だと思っている温度</u>	775名	26.4 度 (2.1)
自分が寒いと感じる設定温度	766名	23.4 度 (3.2)
自分が暑いと感じる設定温度	773名	28.6 度 (1.8)

注1) 「0 (わからない)」の回答は集計から除外した。

注2) 明らかに入力ミスと思われる100度を超える回答1件、冷房の設定温度のすべての質問において設定温度としては異様に低い値を回答した2件を分析対象外とした。

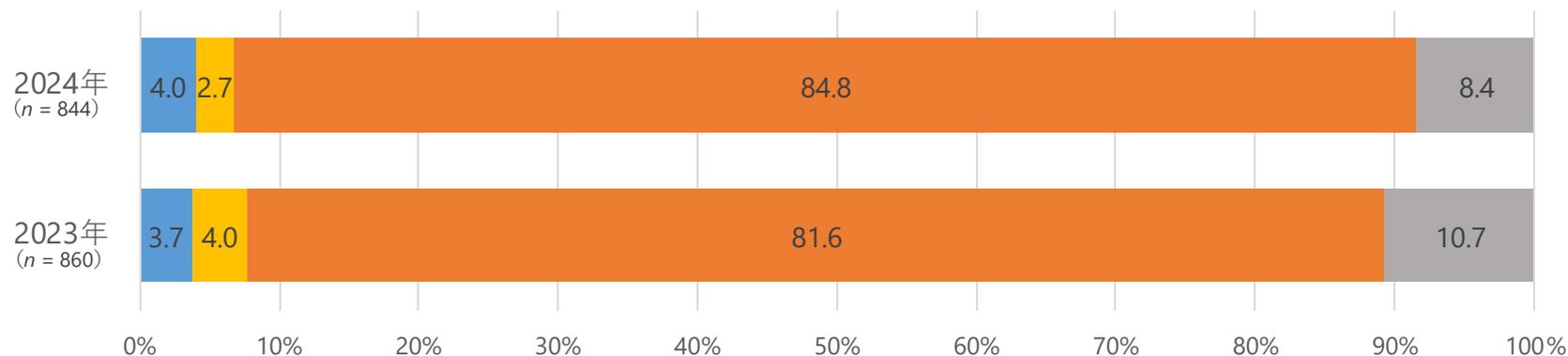
→ 「自宅で設定している温度」と「自分が快適だと思っている温度」を
前回の調査（2023年9月）のデータと併せて比較（次ページへ）

2.4. その他：暑さ関連

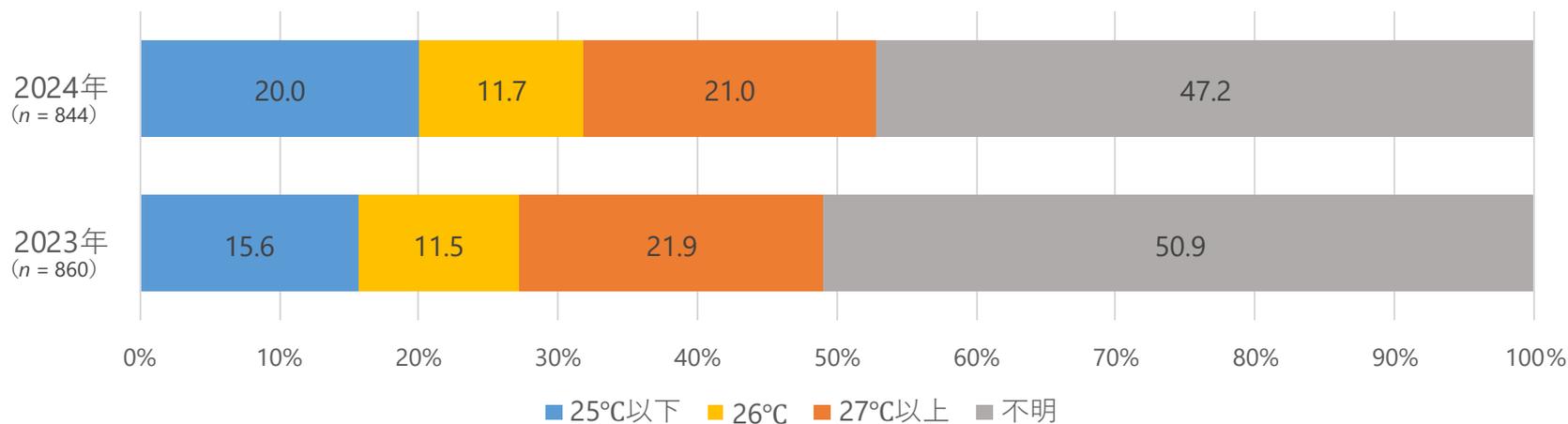
調査概要

結果

自宅で設定している温度



自分が快適だと思っている温度



注1) 明らかに入力ミスと思われる100度を超える回答1件、冷房の設定温度のすべての質問において設定温度としては異様に低い値を回答した3件を分析対象外とした。
※前回調査のデータ含む。

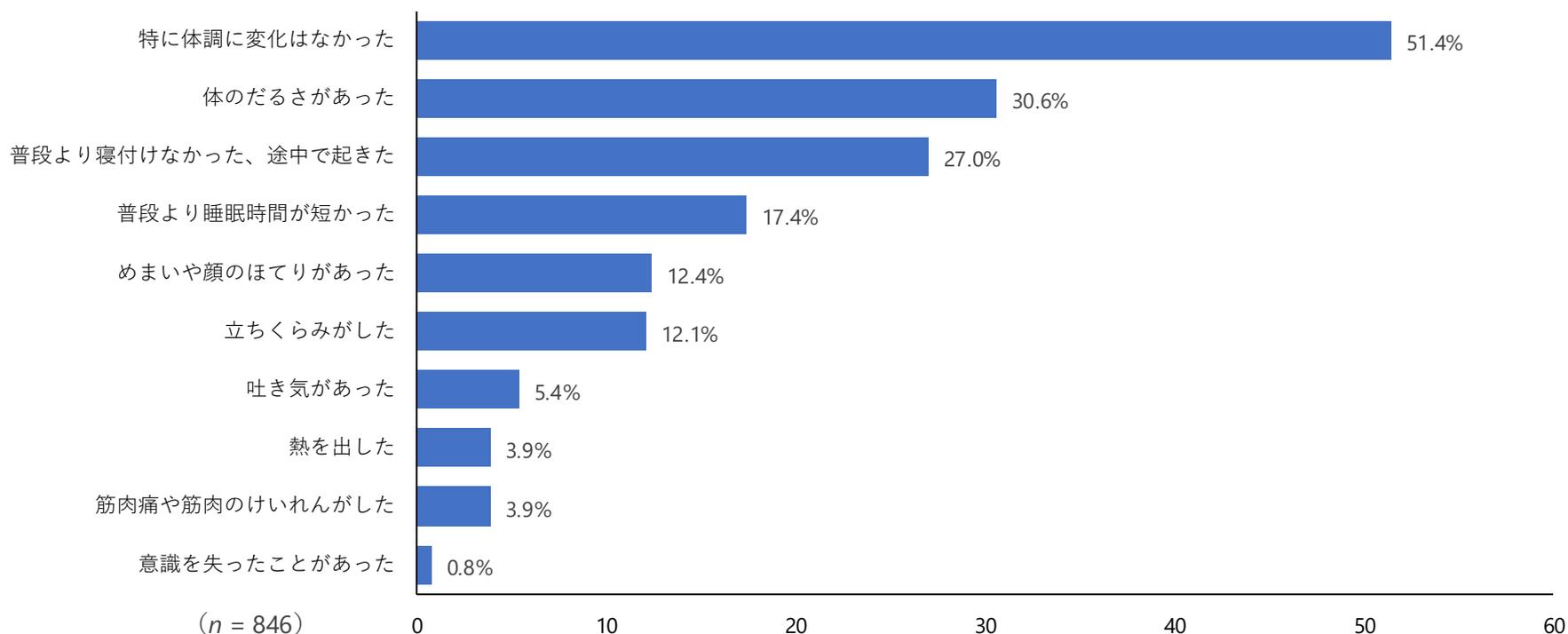
2.4. その他：暑さ関連

調査概要

結果

(3) 健康への影響

「この夏、暑さが理由で、以下のように体調を悪化させたことがありましたか。当てはまるものを全て選んでください。理由がはっきりしなくても、暑さが理由と思われる場合にはチェックしてください。（特にない場合は、最後の「特に体調に変化はなかった」にチェックしてください）」



⇒約5割の人が「特に体調に変化はなかった」と回答した一方、約3割の人は暑さによる**体のだるさ**と**寝つきの悪さ**を報告。

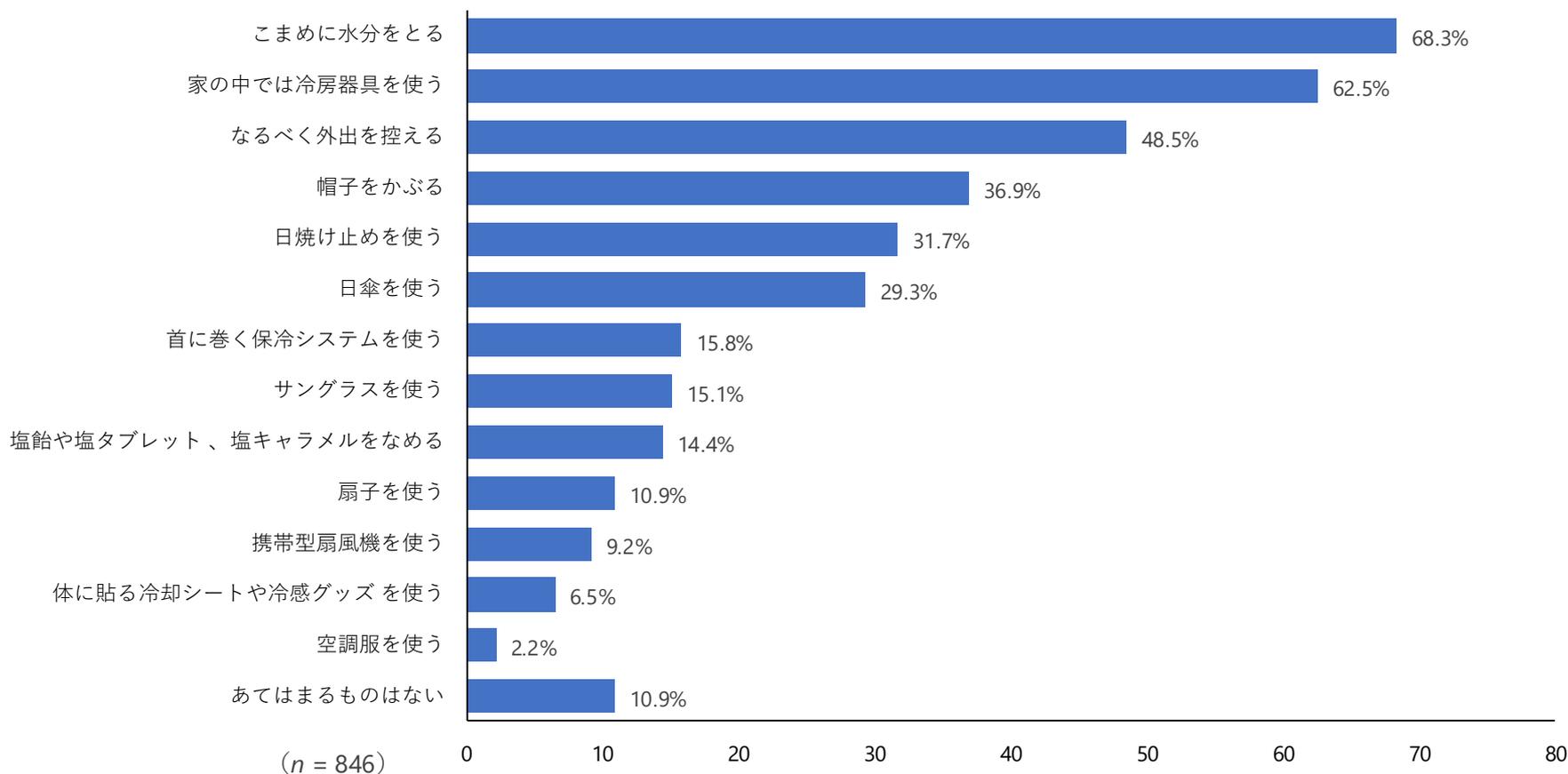
2.4. その他：暑さ関連

調査概要

結果

(4) 暑さ対策の取り組み状況

「下の項目のうち、あなたが暑さ対策として行っているものを、全て選んでください。」



⇒調査参加者は**平均3.5個 (SD = 2.4)**の暑さ対策を実施していた。

※ほぼ同じ項目で実施の前回調査 (2023年9月) では平均3.3個 (SD = 2.2)。

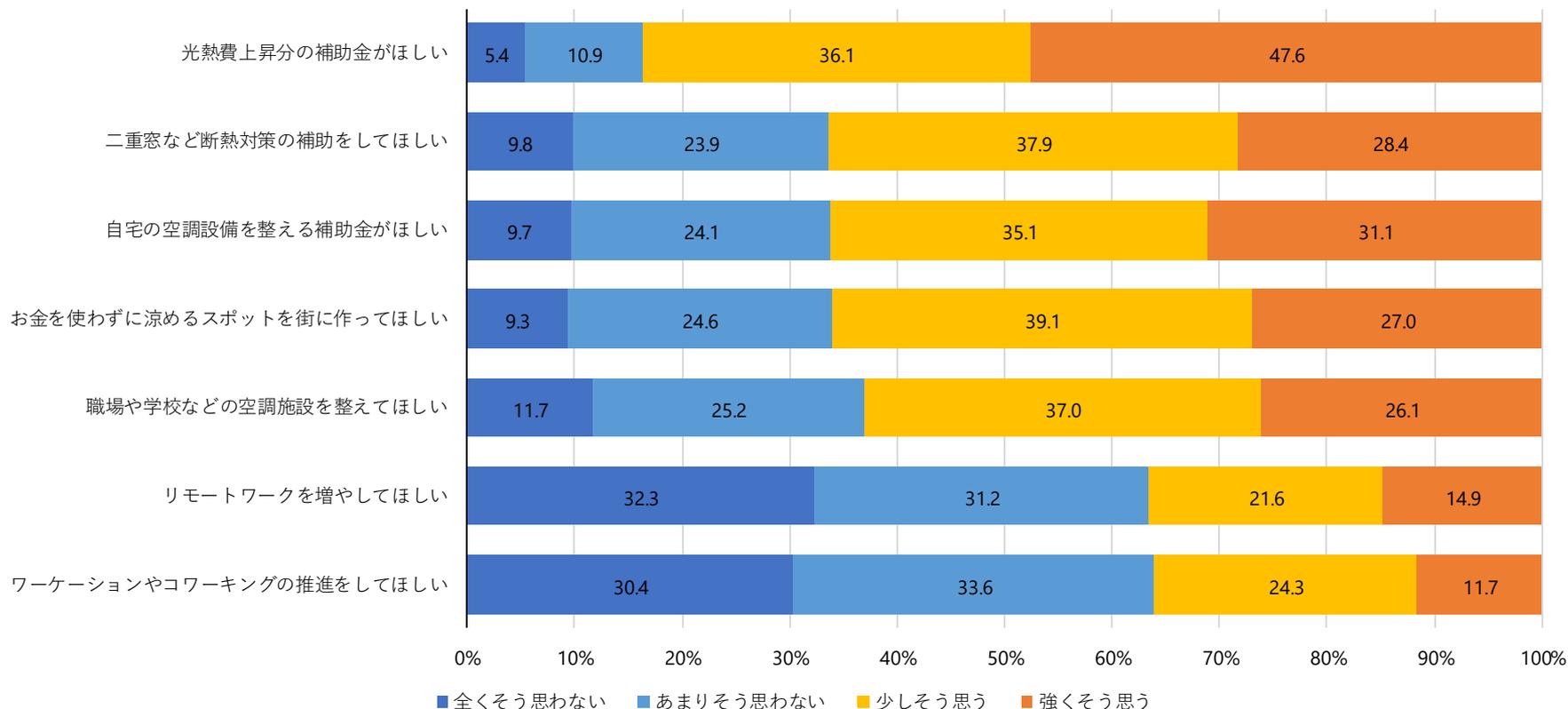
2.4. その他：暑さ関連

調査概要

結果

(5) 対応策への期待

「以下の暑さ対策として、政府に以下のようなサポートをして欲しいと思いますか。項目のうち、あなたが暑さ対策として行っているものを、全て選んでください。」



⇒暑さ対策の対応策として**光熱費上昇分の補助金の支給**が最も期待されている（**83.7%**の人が少し、もしくは強くそう思うと回答）。

2.4. その他：項目の詳細

調査概要

結果

その他の調査項目

- 暑さ関連 ...夏の1日の時間配分・冷房の設定温度・健康への影響・暑さ対策など
- **政治関連 ...政治的態度・政策への賛否・外国人居住者に対する寛容性**
- 災害準備 ...防災行動・南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動
- 米不足に対する購買行動 ...購買行動の有無・購買行動の理由

人々の政治的志向について、**保守と革新**のどちらであるかを1項目で尋ねた。また、近年議論がなされている**政治的トピックや政策についての賛否**を尋ねた。さらに、近年の外国人居住者の増加に関する下記の調査背景を踏まえ、吉野・小塩（2020）において**外国人居住者に対する寛容性**を測定するために用いられた5項目（例「外国人労働者や留学生が自分の住むところに増えることに不安を感じる（逆転項目）」）を尋ねた。

※ 調査参加者は「答えたくない」を選択することで回答しないことも選択できる設計となっていた。そのため、「答えたくない」が選択された回答については一部集計の対象外とし、分析においては政治関連のすべてに回答した人のみを分析の対象とした。

～参考情報～

- 2023年末時点で、日本における在留外国人数（短期滞在者を除く）は341万992人であり、前年末と比較しても10.9%増加している（総務省, 2024）。
- 現在の日本の総人口の1億2119万3000人（統計局, 2024）と比較すると日本における在留外国人の数は多く、また、今後さらに増加していくことが見込まれる。

⇒日本社会における人々の外国人居住者に対する意識や態度を調査する。

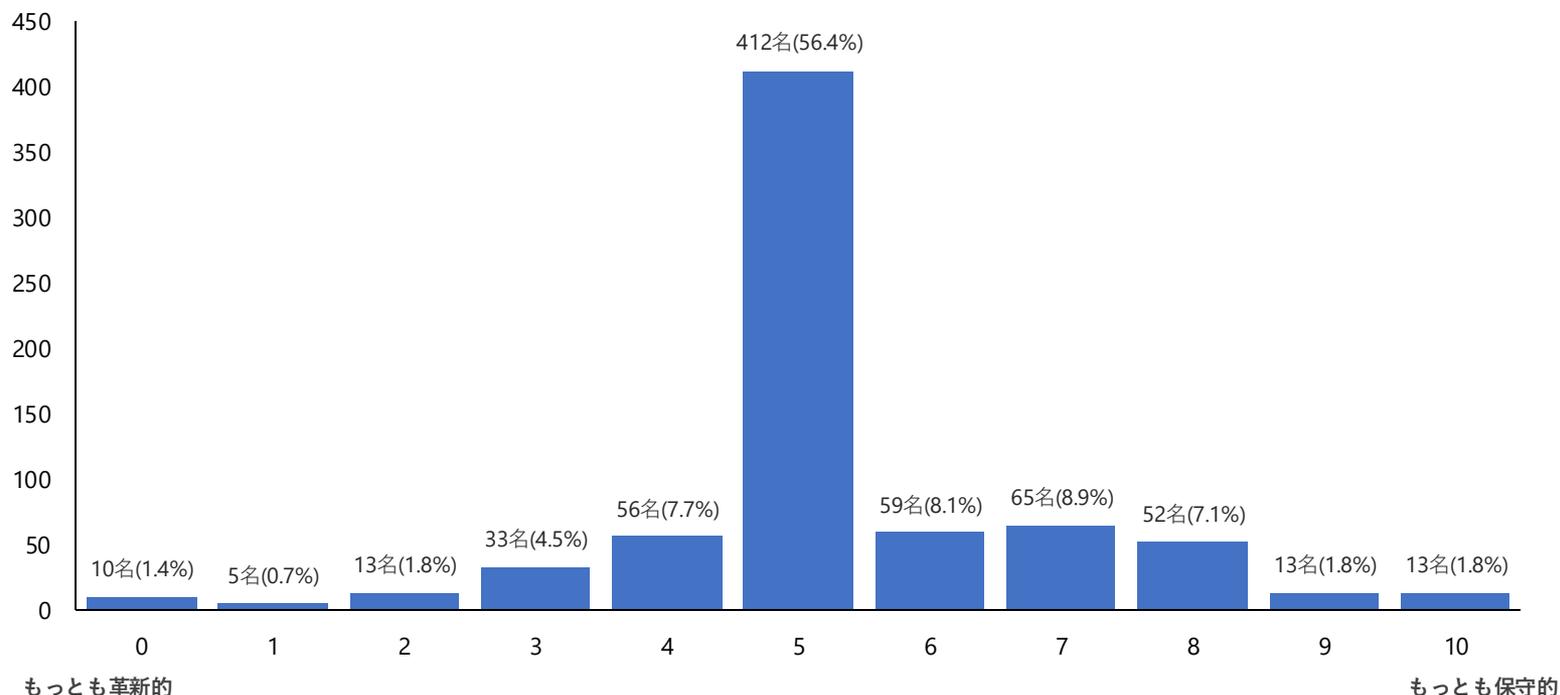
2.4. その他：政治関連

調査概要

結果

(1) 政治的態度

「あなたの政治的態度について、0=もっとも革新的、10=もっとも保守的の11段階で評価し、最も近い数字をお答えください」



⇒政治的に「中間」を回答した人が全体の**56.4%**（412名）を占めていた。

※得点平均は5.32 ($SD = 1.61$)

注) 「答えたくない」という回答は集計から除外 ($n = 731$)。

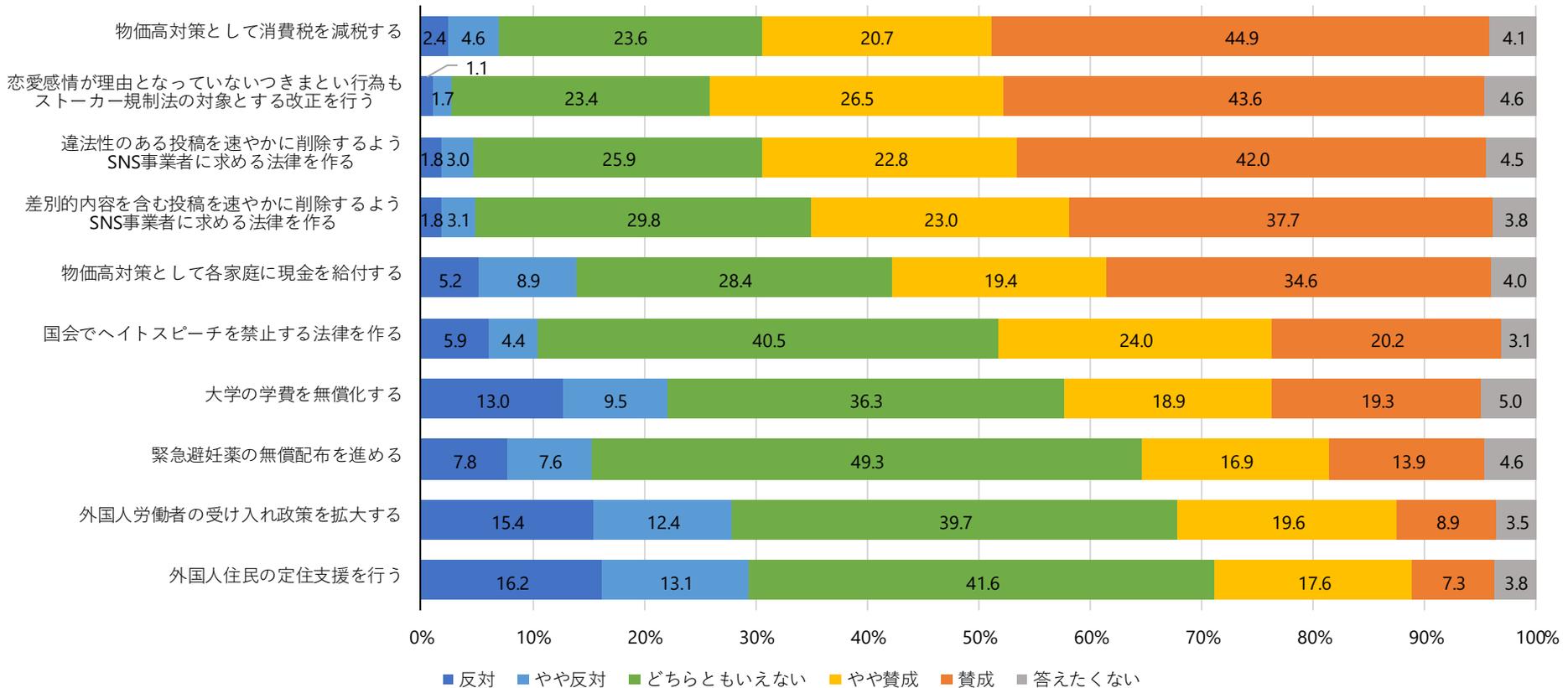
2.4. その他：政治関連

調査概要

結果

(2) 政策への賛否

「あなたは次のような政策案についてどのような意見をお持ちですか。あなたの意見にもっとも近い回答をそれぞれ選んでください。」



⇒消費税減税、ストーカー対策の強化、SNSの規制には賛成が多い一方、外国人に対する政策については賛否が拮抗し、意見が分かれている。

(3) 外国人居住者に対する寛容性

...吉野・小塩（2020）において外国人居住者に対する寛容性を測定するために用いられた5項目。
（例「外国人労働者や留学生が自分の住むところに増えることに不安を感じる（逆転項目）」）

⇒得点平均は**1.83** ($SD = 0.80$) ※「1 全くあてはまらない～5非常によくあてはまる」で算出。

●外国人居住者に対する寛容性与其他変数との関連

政治的態度

- 政治的態度が**保守的であるほど外国人居住者に対する寛容性が低く、革新的であるほど外国人居住者に対する寛容性が高い**ことが示された。^{a)}

性格特性

- 外国人居住者に対する寛容性と性格特性との関連を分析したところ、**外向性、協調性、勤勉性、開放性が高いほど寛容性が高く、神経症傾向が高いほど寛容性が低い傾向**が示された。^{a)}
※ダークトライアドとの間には10%水準で有意傾向が見られたが、サンプルサイズが大きいため結果の解釈は控えた。
- 性格特性との相関係数は全体的に低かったが、神経症傾向との間の関連は比較的強く ($r = -.21$)、**外国人居住者に対する寛容性と特に関連がある性格特性は神経症傾向**であることが示唆された。^{a)}

属性項目

- その他、性別、年齢、就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴、主観的健康、昨年と比較した現在の暮らし向き、主観的な社会階層、世帯年収といった**属性項目と外国人居住者に対する寛容性**の間に**有意な関連は認められなかった**。^{b)}

^{a)} スピアマンの順位相関分析の結果 $n = 679$ （政治関連の質問すべてに回答した人を分析の対象とした）。⇒付録10

^{b)} 政治的態度、年齢、就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴、主観的健康、昨年と比較した現在の暮らし向き、主観的な社会階層、世帯年収を説明変数、外国人居住者に対する寛容性を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果。⇒付録11

●政策への賛否とその他変数との関連^{a)}

- 外国人居住者に対する寛容性が高いほど、外国人の受け入れ政策や定住支援、ヘイトスピーチの禁止、緊急避妊薬の無償配布、大学学費の無償化、消費税の減税といった政策に反対する傾向が示された。
- 特に、外国人の受け入れ政策 ($r = .57$) と定住支援 ($r = .53$) との関連が比較的強く、外国人居住者に対する寛容性が高いほどこれらの政策に反対する傾向があることが示された。
- 政治的態度が保守的であるほど外国人居住者に対する寛容性が低く、革新的であるほど高かった。
- 精神的健康、不公平感、性格特性、それぞれと政治的態度との関連はほぼ無相関であり、関連は認められなかった。

☆ただし、上記の結果については政治的態度とその他変数との関連を表す相関係数は全体的に低かったことに留意する必要がある

(各政策賛否ならびに寛容性との間の相関係数はすべて絶対値「.20」以下、精神的健康・不公平感・性格特性、それぞれとの相関係数は全て絶対値「.10」以下であった)。

⇒保守か革新かという政治的態度の質問においては「中間」を回答した人が多く、明確な政治的立場を持つ人が少なかったことが原因として考えられる。

●属性変数との関連^{b)}

性別の効果

- 全体的に女性は男性よりも今回調査した政策を賛成する傾向が示されたが、外国人受け入れや定住支援、ヘイトスピーチの禁止以外の政策については性別の効果は認められなかった。

年齢の効果

- 外国人受け入れや定住支援、ヘイトスピーチの禁止、SNS関連の規制ならびにストーカー規制の政策については年齢が高いほど賛成する傾向が示されたが、物価高対策の政策については年齢が高いほど反対する傾向が示された。

主観的健康の効果

- 主観的な健康状態が良いほどストーカー規制と大学学費の無償化の政策に賛成する傾向が示された。

主観的な社会階層

- 主観的な社会階層が高いほど物価高対策、大学学費の無償化、ストーカー規制法の政策に反対する傾向が示された。

☆就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴の高さ、世帯年収から不公平感への統計的に有意な関連は示されなかった。

その他の調査項目

- 暑さ関連 ...夏の1日の時間配分・冷房の設定温度・健康への影響・暑さ対策など
- 政治関連 ...政治的態度・政策への賛否・外国人居住者に対する寛容性
- **災害準備 ...防災行動・南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動**
- 米不足に対する購買行動 ...購買行動の有無・購買行動の理由

元吉他（2008）、豊田（2021）、内閣府（2009）の調査で用いられた防災行動に関する項目を参考に、防災アプリや防災アカウントのフォローのような情報防災に関する項目を加えた10項目を作成した。また、**南海トラフ地震臨時情報¹⁾**の発表に伴う防災行動についても項目を作成し、調査を行った。

～参考情報～

- 2024年8月8日16:43頃に日向灘で発生したマグニチュード7.1の地震を受けて開催された「南海トラフ地震に関する評価検討会」において、南海トラフ地震の発生可能性が平常時より高まっていると評価され、同日19:15に「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された（注意の呼びかけは2024年8月15日に終了）（気象庁, 2024）。
- お盆休みの直前であったこともあり、観光地での宿泊キャンセルやガイドツアーの中止が報じられた。また、東海道新幹線は一部区間で速度を落として運行するなど、交通機関にも影響が出た。

⇒本調査は同年9月に実施のため、人々の防災意識は通常よりも高まっていたと推測される。

¹⁾ 南海トラフ（日本の南側にある海溝）沿いで異常な現象を観測された場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に気象庁から発表される情報。

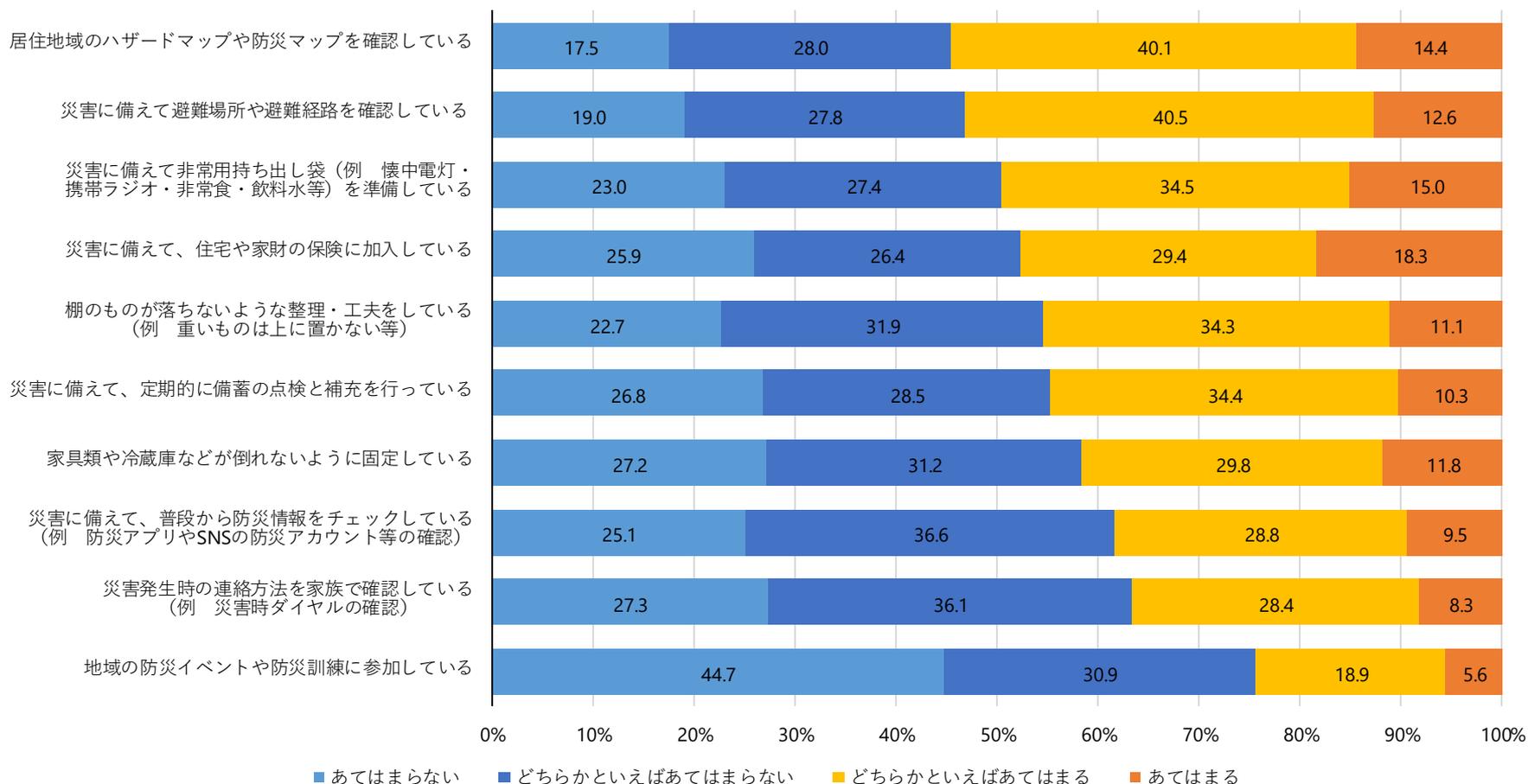
2.4. その他：災害準備

調査概要

結果

(1) 防災行動

「以下の項目はそれぞれ、あなたにどの程度あてはまりますか？最も近いと思う選択肢をひとつだけ選択してください。」



⇒得点平均は**2.29** ($SD = 0.72$) ※「1 あてはまらない～4 あてはまる」で算出

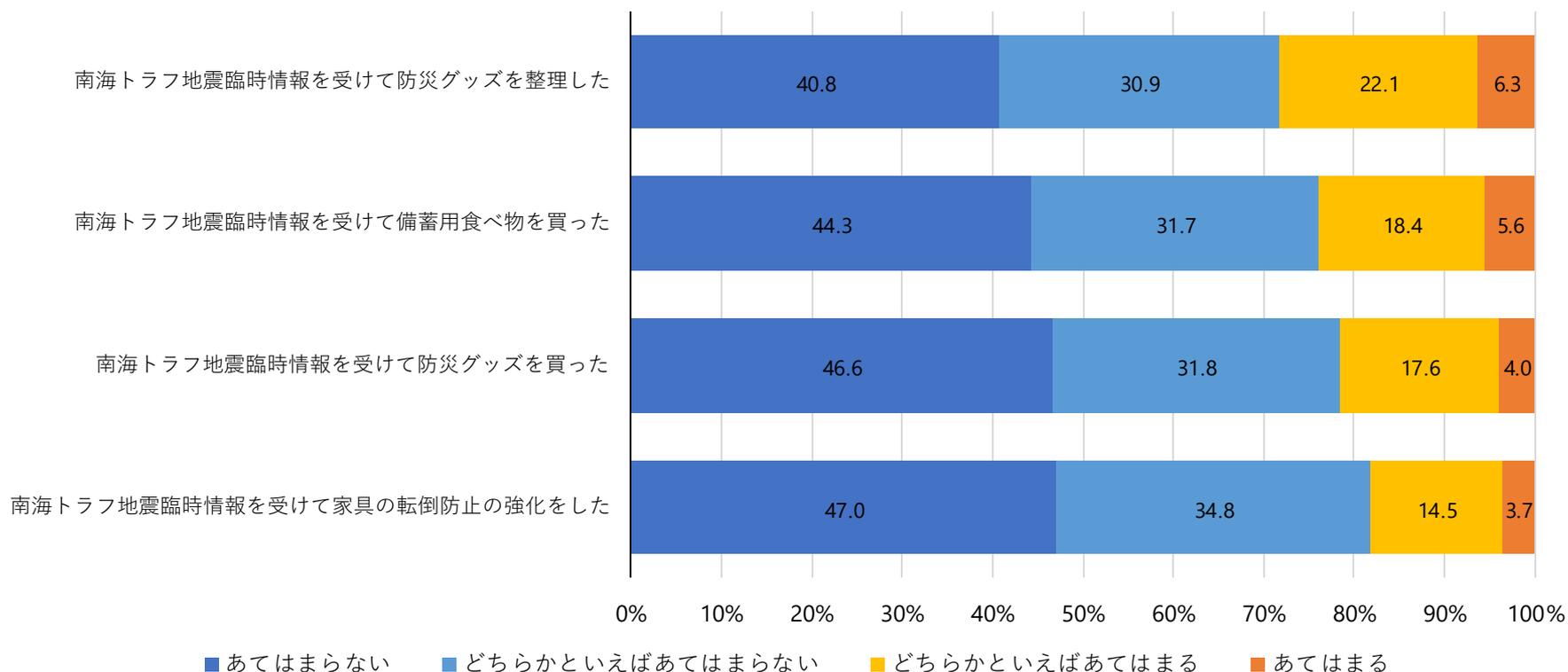
2.4. その他：災害準備

調査概要

結果

(2) 南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動

「以下の項目はそれぞれ、あなたにどの程度あてはまりますか？最も近いと思う選択肢をひとつだけ選択してください。」



⇒得点平均は**1.83** ($SD = 0.80$) ※「1 あてはまらない～4 あてはまる」で算出

2.4. その他：災害準備

属性変数との関連^{a)}

●防災行動

- 学歴、主観的な社会階層が高いほど、また主観的な健康状態が良いほど、防災行動の得点が高い傾向が示された。
- 一人暮らしの人は、それ以外の人より防災行動の得点は低い傾向が示された。

●南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動

- 結婚している人はそれ以外の人より、南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動の得点が高い傾向が示された。
- 年齢、主観的な社会階層が高いほど、南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動の得点は低い傾向が示された。

普段の災害準備と南海トラフ臨時情報に伴う防災行動の関連

- 防災行動と南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動の間には、**有意な正の相関** ($r = .618, p < .001$) が認められ、**日頃から災害準備をしている人は、南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動の得点も高い**ことが示された。

^{a)} 性別、年齢、就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴、主観的健康、昨年と比較した現在の暮らし向き、主観的な社会階層、世帯年収を説明変数、災害準備の指標（防災行動/南海トラフ臨時情報を受けての防災行動）を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果。⇒付録13

2.4. その他：項目の詳細

調査概要

結果

その他の調査項目

- 暑さ関連 ...夏の1日の時間配分・冷房の設定温度・健康への影響・暑さ対策など
- 政治関連 ...政治的態度・政策への賛否・外国人居住者に対する寛容性
- 災害準備 ...防災行動・南海トラフ地震臨時情報を受けての防災行動
- **米不足に対する購買行動 ...購買行動の有無・購買行動の理由**

～参考情報～

- 2024年8月中旬から下旬にかけて、日本全国で米不足が大きな話題となり、各地のスーパーでの品薄と価格の上昇が起きた。
- 話題となった時期に流通していたのは前年の2023年米であり、2023年の**作況指数¹⁾**は「101」で「平年並み」と評価されていた。しかし、各地のスーパーでは品薄と価格の上昇が見られ、日本全国で米不足が大きな話題となった。

⇒ 南海トラフ地震に関連した臨時情報や台風の影響による米の備蓄増加、
昨年の猛暑による米の品質低下、新米への切り替わり直前の時期であったこと、
さらに各メディアによる連日の米不足報道など、**複合的な要因が関わっていると推測されたため、これを調査。**

¹⁾ 当年の「お米の出来具合」を表す指標。10a（アール）当たり平年収量に対する10a（アール）当たり収量の比率で表したものの。

²⁾ 農林水産省(2024). 米をめぐる参考資料 最近の米をめぐる状況について（令和6年11月）https://www.maff.go.jp/j/seisan/kikaku/kome_siryou.html

2.4. その他：米不足に対する購買行動

調査概要

結果

(1) 米不足に対する購買行動の有無

「あなたは、米不足が話題となった今年の8月から9月にかけて、普段より多めに／早めにお米を買いましたか？
当てはまるものにチェックしてください」

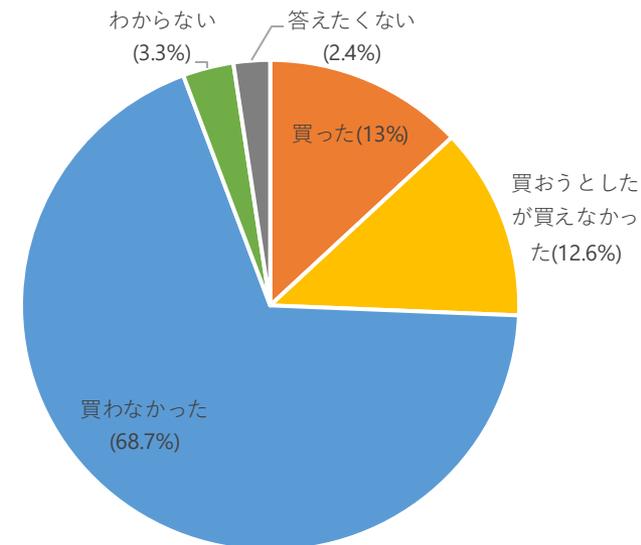
⇒米不足が話題となった時期に普段より多め/
早めに米を購入もしくは購入しようとした
人は全体の**25.6% (217名)**。

属性項目との関連^{a)}

- 性別、年齢、同居者の有無、暮らし向きの変化が米不足に対する購買行動に関連していることが示された。

☆男性、一人暮らしの人、年齢の高い人ほど、米を購入した、または購入しようとした人が有意に少なかった。

☆一方、1年前より暮らし向きが良くなったと感じている人ほど、購入した、または購入しようとした人が有意に多かった。



米不足に対する購買行動の有無
(n = 846)

^{a)} 性別、年齢、就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴、主観的健康、昨年と比較した現在の暮らし向き、主観的な社会階層、世帯年収を説明変数、米不足に対する購買行動の有無を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析の結果。※「答えたくない」と回答した人は分析から除外 (n = 826) ⇒付録14

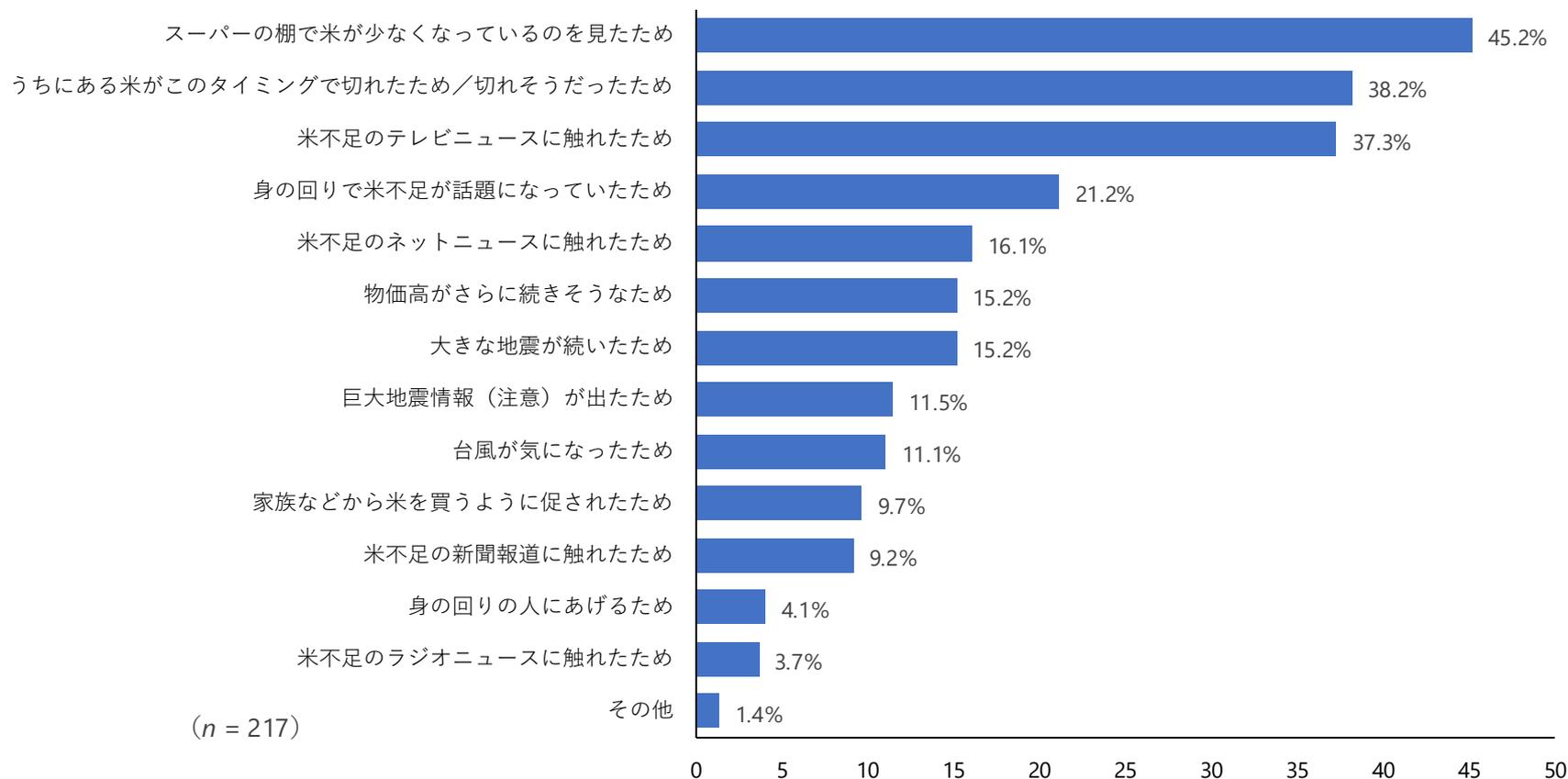
2.4. その他：米不足に対する購買行動

調査概要

結果

(2) 米不足に対する購買行動の理由

「直前の質問で「買った」「買おうとしたが買えなかった」を選んだ方にお聞きします。下記の項目のうち、あなたが米を普段より多めに／早めに購入しようとした理由に該当するものを、すべて選んでください」



⇒店舗で実際に**米の品薄を目にしたこと**や、**各メディアの報道**が主な理由として多く選択された。

引用文献

- 統計局 (2024). 人口推計 (2023年 (令和5年) 10月1日現在) Retrieved from <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2023np/pdf/2023gaiyou.pdf> (2024年5月15日)
- Diener, E. D., Emmons, R. A., Larsen, R. J., & Griffin, S. (1985). The satisfaction with life scale. *Journal of personality assessment*, 49(1), 71-75.
- 法務省(2024). 令和5年末現在における在留外国人数について Retrieved from https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00040.html (2024年5月15日)
- Hughes, M. E., Waite, L. J., Hawkey, L. C., & Cacioppo, J. T. (2004). A short scale for measuring loneliness in large surveys: Results from two population-based studies. *Research on aging*, 26(6), 655-672.
- Igarashi, T. (2019). Development of the Japanese version of the three-item loneliness scale. *BMC psychology*, 7, 1-8.
- 気象庁(2024). 南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意) に伴う政府としての特別な注意の呼びかけの終了について ~令和6年8月8日16時43分頃の日向灘の地震について (第8報) 及び南海トラフ地震関連解説情報 (第7号) について~ [別添2] Retrieved from <https://www.jma.go.jp/jma/press/2408/15a/202408151800.html>
- 気象庁(2024). 2023年 (令和5年) の天候のまとめ (2024年1月4日発表) Retrieved from <https://www.jma.go.jp/jma/press/2401/04b/tenko2023.html>
- 気象庁(2024). 2024年 (令和6年) の天候のまとめ (速報) (2024年12月25日発表) Retrieved from https://www.jma.go.jp/jma/press/2412/25a/20241225_2024tenkou.html
- 厚生労働省 (2024). 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応について (2023年4月27日公表) Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/stf/corona5rui.html>
- 厚生労働省 (2024). 新型コロナワクチンQ&A 定期接種の対象者、接種の方法、注意など Retrieved from https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_qa.html#3
- 村松 公美子 (2014). Patient Health Questionnaire (PHQ-9, PHQ-15) 日本語版および Generalized Anxiety Disorder-7 日本語版-up to date- *新潟青陵大学院臨床心理学研究*, 7, 35-39.
- Muramatsu, K., Kamijima, K., Yoshida, M., Otsubo, T., Miyaoka, H., Muramatsu, Y., & Gejyo, F. (2007). The patient health questionnaire, Japanese version: validity according to the mini-international neuropsychiatric interview-plus. *Psychological reports*, 101(3), 952-960.

引用文献

- 元吉 忠寛・高尾 堅司・池田 三郎 (2008). 家庭防災と地域防災の行動意図の規定因に関する研究 *社会心理学研究*, 23(3), 209-220.
- 農林水産省 (2024). 令和5年産水陸稲の収穫量 Retrieved from https://www.maff.go.jp/j/tokei/kekka_gaiyou/sakumotu/sakkyou_kome/suiriku/r5/syukaku/
- 農林水産省 (2024). 米をめぐる参考資料 最近の米をめぐる状況について (令和6年11月) Retrieved from https://www.maff.go.jp/j/seisan/kikaku/kome_siryou.html
- 小塩 真司・阿部 晋吾 (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み *パーソナリティ研究*, 21(1), 40-52.
- 総務省統計局 (2024). 全国の地域・性別・年齢の人口分布 (総務省統計局「人口推計」(2023年10月1日現在人口 (2024年4月12日発表)) Retrieved from <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2023np/index.html>
- 総務省統計局 (2024). 人口推計 (2023年 (令和5年) 10月1日現在) Retrieved from <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2023np/pdf/2023gaiyou.pdf> (2024年5月15日)
- Spitzer, R. L., Kroenke, K., Williams, J. B., Patient Health Questionnaire Primary Care Study Group, & Patient Health Questionnaire Primary Care Study Group. (1999). Validation and utility of a self-report version of PRIME-MD: the PHQ primary care study. *Jama*, 282(18), 1737-1744.
- Spitzer, R. L., Kroenke, K., Williams, J. B., & Löwe, B. (2006). A brief measure for assessing generalized anxiety disorder: the GAD-7. *Archives of internal medicine*, 166(10), 1092-1097.
- 田村 紋・小塩 真司・田中 圭介・増井 啓太 (2015). 日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (DTDD-J) 作成の試み *パーソナリティ研究* 24(1), 26-37.
- 豊田 祐輔 (2021). 壮年層に着目した地域防災活動への参加意図に関する研究 *自然災害科学*, 39(4), 391-406.
- 角野 善司 (1995). 人生に対する肯定的評価尺度の作成 (1) *日本教育心理学会総会発表論文集第37回総会発表論文集*, 95.
- 吉野 伸哉・小塩真 司(2020). 日本における外国人居住者に対する寛容性と Big Five の関連—— 社会生態による調整効果—— *心理学研究* 91(5), 323-331.

付録

付録1：すべての心理尺度の記述統計量

変数名	α	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小値	最大値
抑うつ	.917	4.94	3.00	5.82	33.82	0.00	27.00
不安感	.927	3.97	2.00	4.87	23.76	0.00	21.00
孤独感	.857	1.59	1.33	0.63	0.40	1.00	3.00
人生満足感	.919	3.05	3.00	1.13	1.27	1.00	6.00
個人的不公平感	.782	1.50	1.50	0.59	0.35	1.00	3.00
社会的不公平感	.837	1.89	2.00	0.70	0.49	1.00	3.00
外国人居住者に対する寛容性		2.86	3.00	0.75	0.56	1.00	5.00
政治的態度 (0革新～10保守)	.788	5.32	5.00	1.61	2.58	0.00	10.00
〈性格特性〉							
ビッグファイブ							
外向性		3.57	3.50	1.30	1.69	1.00	7.00
協調性		4.88	5.00	1.16	1.34	1.00	7.00
勤勉性		4.15	4.00	1.33	1.76	1.00	7.00
神経症傾向		3.98	4.00	1.26	1.58	1.00	7.00
開放性		3.62	4.00	1.26	1.59	1.00	7.00
ダークトライアド		2.26	2.25	0.71	0.51	1.00	5.00

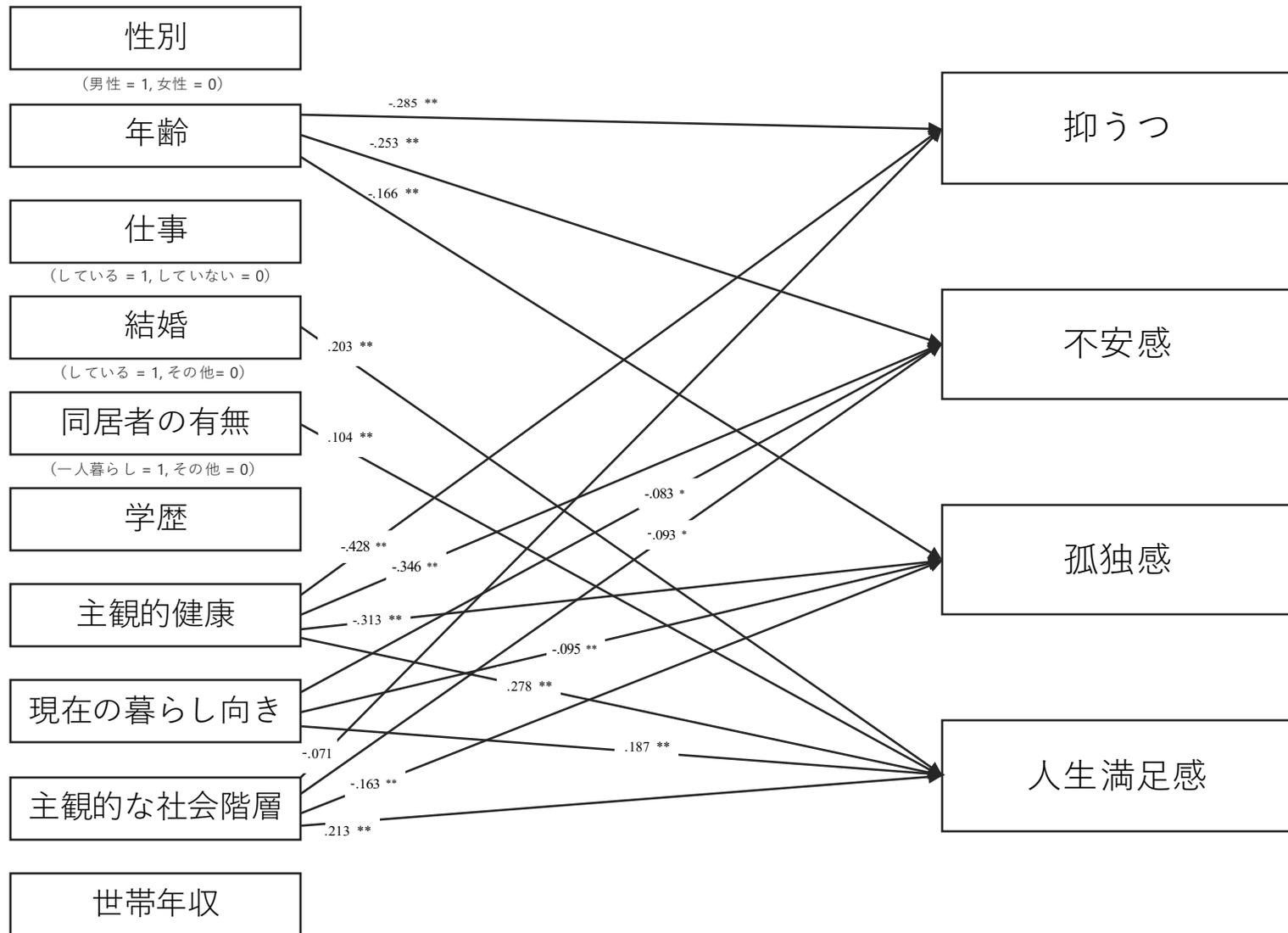
$n = 846$ (政治的イデオロギーのみ731名※「答えたくない」を分析対象から除外のため)

付録2：すべての心理尺度の順位相関分析の結果 (スピアマンの順位相関分析)

変数名	平均値 (SD)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1. 抑うつ	1.55 (0.65)	—														
2. 不安感	1.57 (0.70)	.83 **	—													
3. 孤独感	1.59 (0.63)	.66 **	.63 **	—												
4. 人生満足感	3.05 (1.13)	-.39 **	-.37 **	-.42 **	—											
5. 不公平感	1.70 (0.58)	.57 **	.54 **	.68 **	-.34 **	—										
6. 社会的不公平感	1.50 (0.59)	.57 **	.56 **	.67 **	-.33 **	.85 **	—									
7. 個人的不公平感	1.89 (0.70)	.46 **	.42 **	.55 **	-.30 **	.92 **	.60 **	—								
ビッグファイブ																
8. 外向性	3.57 (1.30)	-.16 **	-.13 **	-.30 **	.31 **	-.16 **	-.11 **	-.16 **	—							
9. 協調性	4.88 (1.16)	-.35 **	-.34 **	-.36 **	.25 **	-.24 **	-.33 **	-.14 **	.02	—						
10. 勤勉性	4.15 (1.33)	-.30 **	-.26 **	-.31 **	.32 **	-.20 **	-.19 **	-.17 **	.25 **	.45 **	—					
11. 神経症傾向	3.98 (1.26)	.48 **	.51 **	.47 **	-.41 **	.33 **	.33 **	.27 **	-.33 **	-.38 **	-.47 **	—				
12. 開放性	3.62 (1.26)	-.09 **	-.08 *	-.15 **	.25 **	-.05	-.04	-.04	.39 **	.05	.29 **	-.30 **	—			
13. ダークトライアド	2.26 (0.71)	.24 **	.23 **	.20 **	-.03	.07 *	.21 **	-.03	.05	-.42 **	-.21 **	.17 **	.15 **	—		
14. 外国人居住者に対する寛容性	2.86 (0.75)	-.13 **	-.14 **	-.19 **	.19 **	-.16 **	-.16 **	-.14 **	.16 **	.15 **	.13 **	-.24 **	.17 **	-.07 *	—	
15. 政治的態度 (0革新～10保守)	5.32 (1.61)	.00	-.01	-.01	-.09 *	-.06	-.06	-.05	-.04	-.05	-.07	.06	-.13 **	.01	-.17 **	—

$n = 846$ (政治的態度のみ731名), ** $p < .01$, * $p < .05$

付録3：精神的健康に対する各属性変数の影響（SEM）

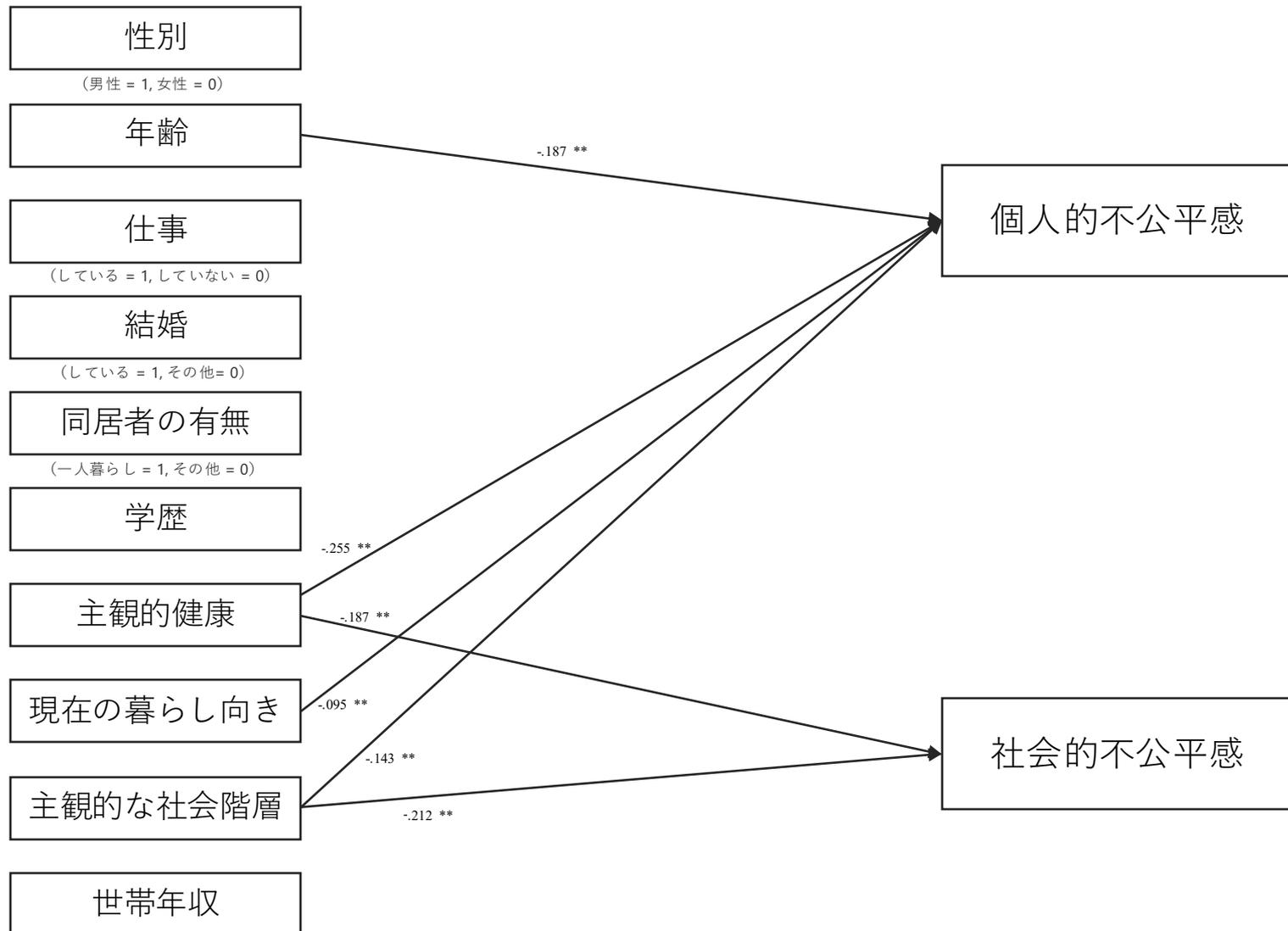


注1) 目的変数のすべての項目間に共分散を設定した。

注2) $n = 846$, ** $p < .01$, * $p < .05$

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録4：不公平感に対する各属性変数の影響（SEM）

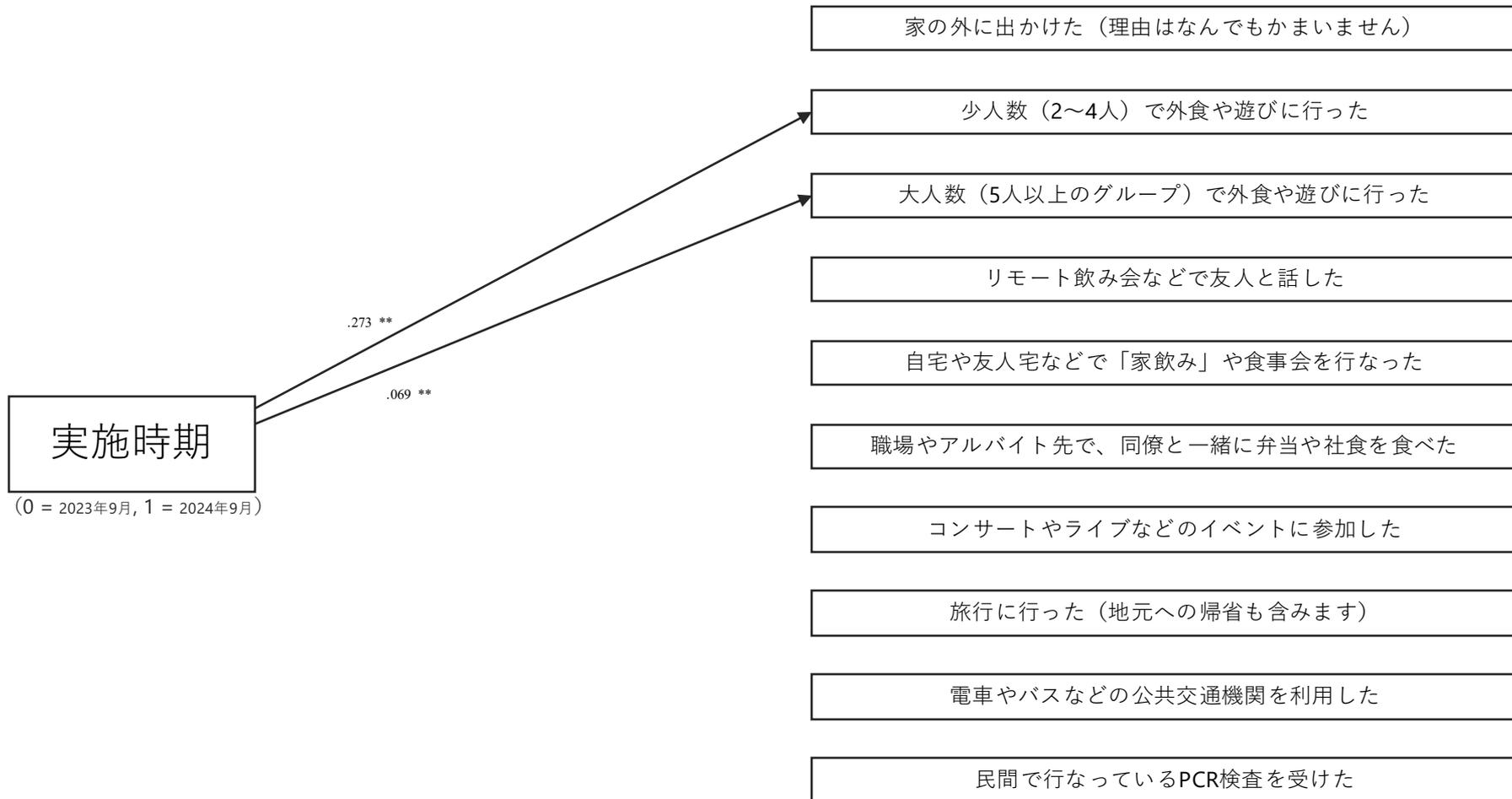


注1) 目的変数のすべての項目間に共分散を設定した。

注2) $n = 846$, ** $p < .01$, * $p < .05$

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録5：外出頻度に対する実施時期の影響（SEM）

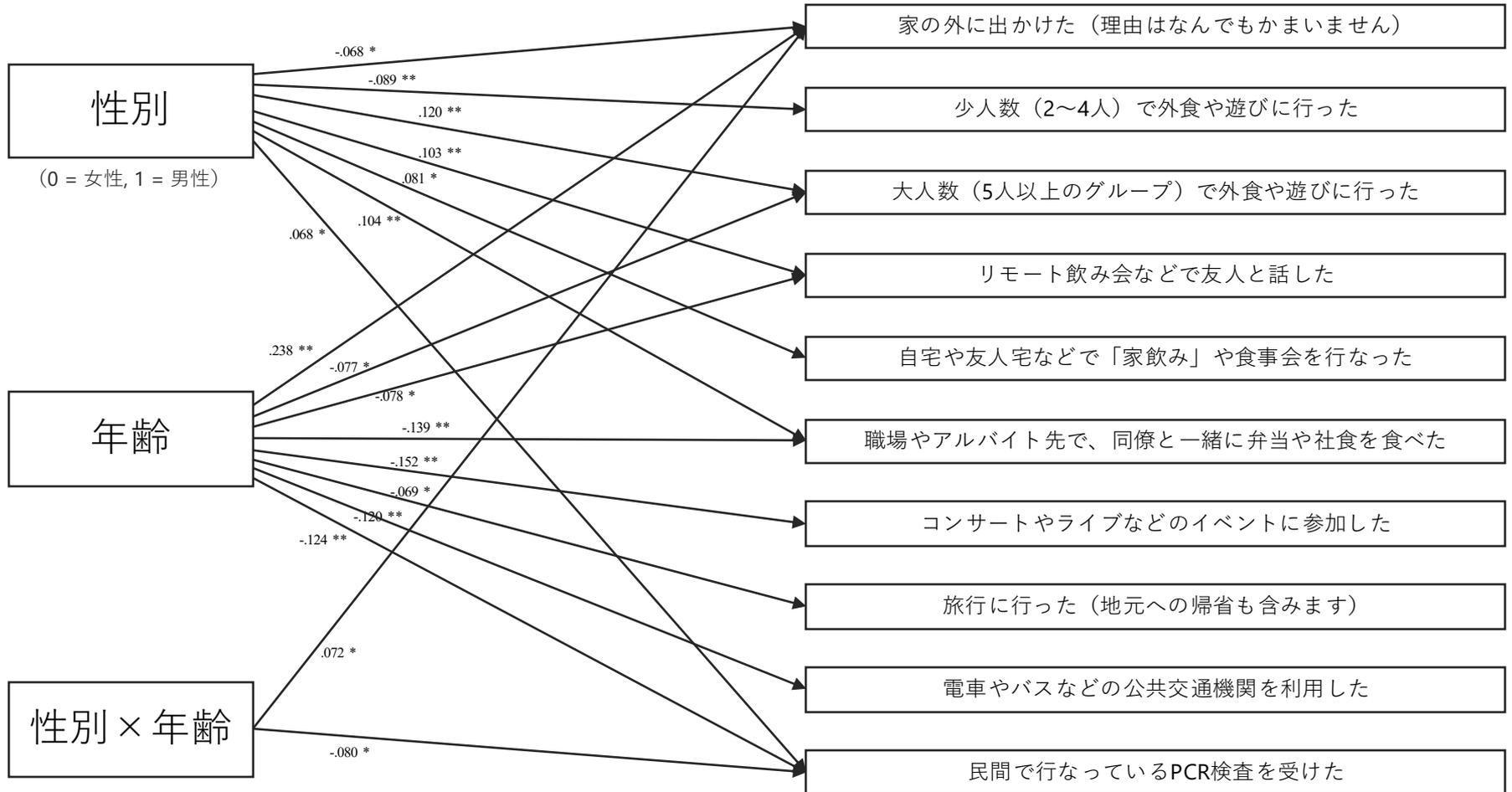


注1) 目的変数のすべての項目間に共分散を設定した。

注2) n = 1707, ** p < .01, * p < .05

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録6：活動頻度に対する性別と年齢の影響（SEM）

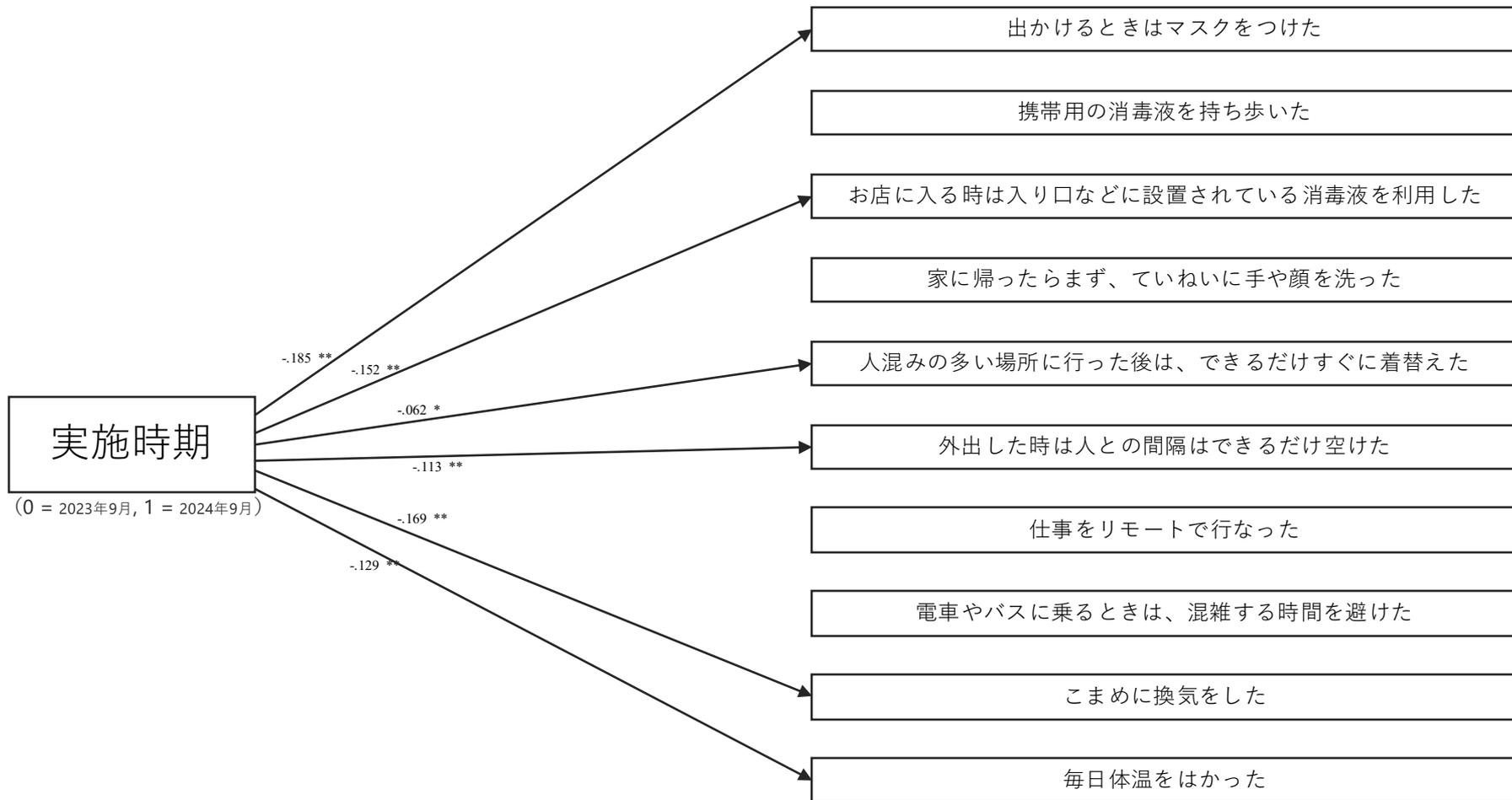


注1) 目的変数のすべての項目間に共分散を設定した。

注2) n = 846, ** p < .01, * p < .05

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録7：感染症対策に対する実施時期の影響（SEM）



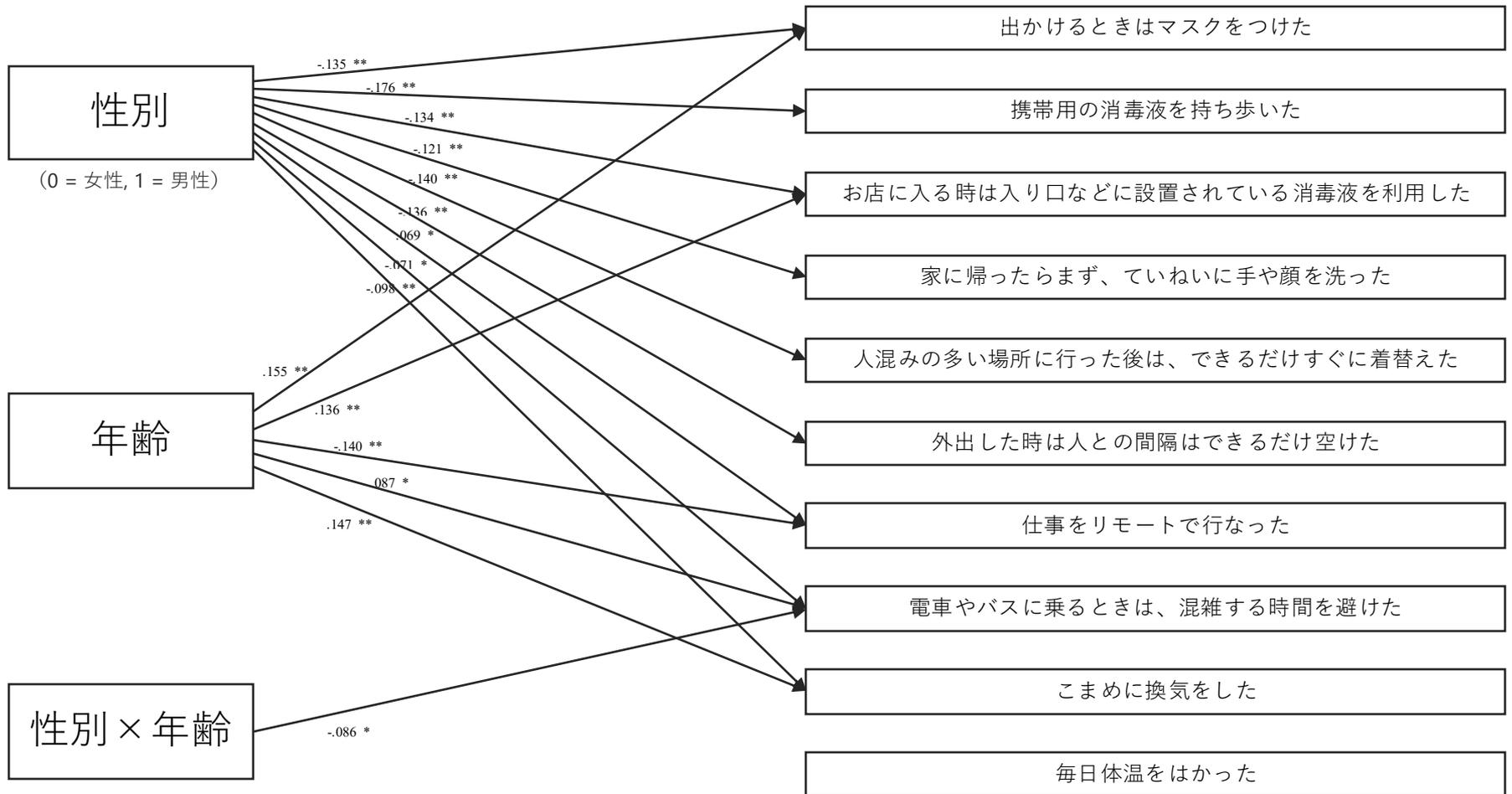
(0 = 2023年9月, 1 = 2024年9月)

注1) 目的変数のすべての項目間に共分散を設定した。

注2) n = 1707, ** p < .01, * p < .05

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録8：感染症対策に対する性別と年齢の影響（SEM）



注1) 目的変数のすべての項目間に共分散を設定した。

注2) $n = 846$, ** $p < .01$, * $p < .05$

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録9：コロナ関連の変数に対する性別と年齢層の影響

ワクチンの接種回数¹⁾を目的変数とする順序ロジスティック回帰分析

変数名	オッズ比
性別 (男性 = 1, 女性 = 0)	1.264
若年層ダミー	.228 **
中年層ダミー	.379 **
性別*若年層ダミー	.451 *
性別*中年層ダミー	.588
擬似 R^2	.059
χ^2 値	34.7 *
df	15

$n = 819$ (「答えたくない」と回答した人は分析から除外), ** $p < .01$, * $p < .05$

ワクチンの接種意欲²⁾を目的変数とする二項ロジスティック回帰分析

変数名	オッズ比
性別 (男性 = 1, 女性 = 0)	1.406 *
若年層ダミー	.580 **
中年層ダミー	.526 **
性別*若年層ダミー	.733
性別*中年層ダミー	.695
R^2	.034 **
χ^2 値	21.597 *
df	5

$n = 778$ (「答えたくない」と回答した人は分析から除外), ** $p < .01$, * $p < .05$

1) コーディング：「0 = 1回も接種していない, 1 = 1回接種した, 2 = 2回接種した, 3 = 3回接種した, 4 = 4回以上接種した」。

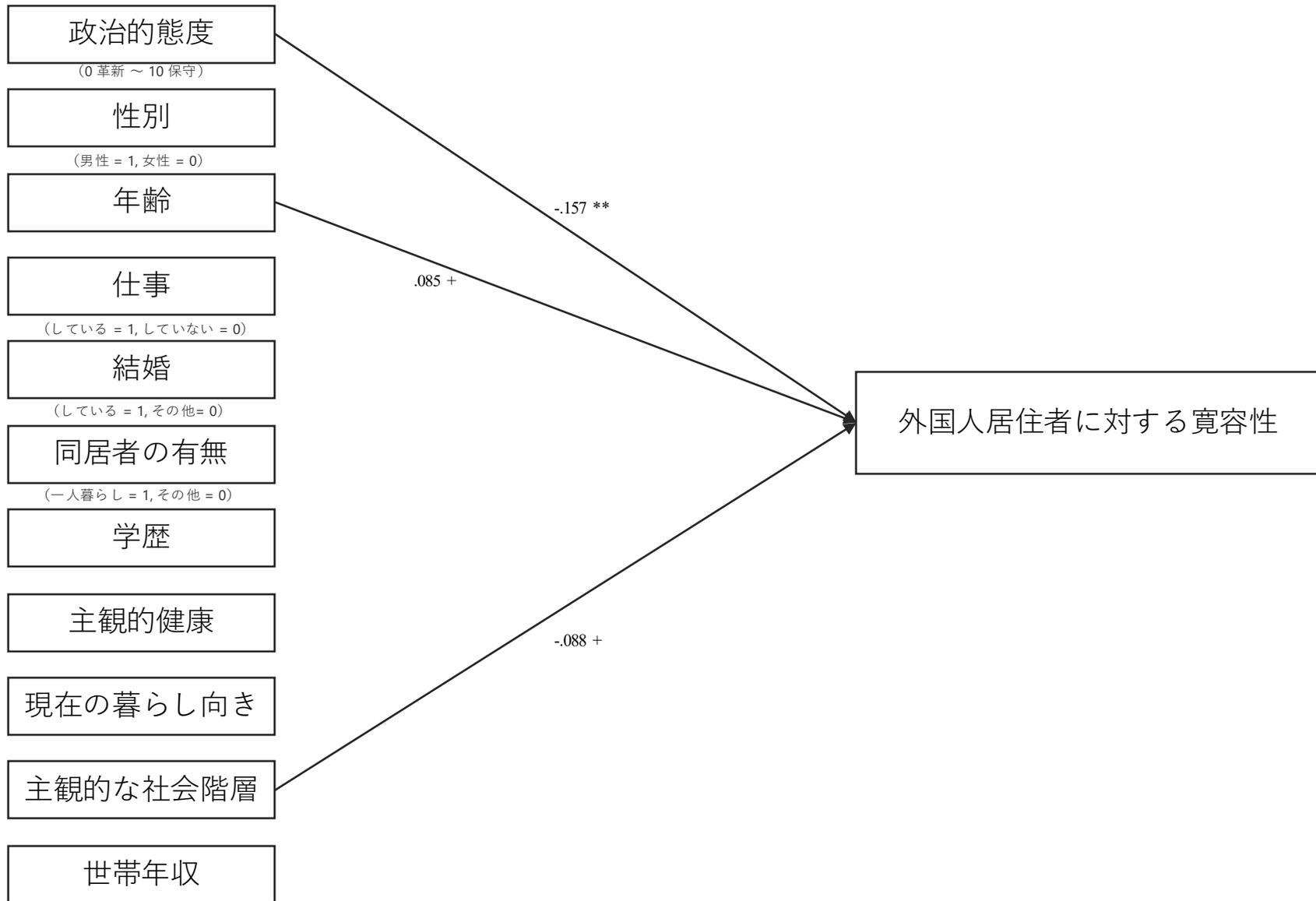
2) コーディング：「0 = 接種したくない, 1 = 接種したい」。

付録10：政治関連変数の順位相関分析の結果 (スピアマンの順位相関分析)

変数名	平均値 (SD)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1. 政治的態度 (0革新～10保守)	5.32 (1.57)	—											
2. 外国人居住者に対する寛容性	2.91 (0.74)	-.14 **	—										
政策への賛否													
3. 外国人労働者の受け入れ政策を拡大する	2.96 (1.12)	-.12 **	.57 **	—									
4. 外国人住民の定住支援を行う	2.89 (1.12)	-.13 **	.53 **	.74 **	—								
5. 国会でヘイトスピーチを禁止する法律を作る	3.52 (1.07)	-.13 **	.18 **	.34 **	.36 **	—							
6. 違法性のある投稿を速やかに削除するようSNS事業者を求める法律を作る	4.07 (0.99)	-.01	-.01	.11 **	.12 **	.39 **	—						
7. 差別的内容を含む投稿を速やかに削除するようSNS事業者を求める法律を作る	3.97 (1.01)	-.03	.04	.18 **	.21 **	.45 **	.73 **	—					
8. 恋愛感情が理由となっていないつきまとい行為もストーカー規制法の対象とする改正を行う	4.15 (0.91)	-.04	-.01	.04	.10 **	.31 **	.54 **	.52 **	—				
9. 緊急避妊薬の無償配布を進める	3.23 (1.05)	-.15 **	.13 **	.19 **	.24 **	.20 **	.13 **	.19 **	.20 **	—			
10. 大学の学費を無償化する	3.24 (1.25)	-.03	.12 **	.18 **	.22 **	.21 **	.06	.14 **	.15 **	.37 **	—		
11. 物価高対策として消費税を減税する	4.03 (1.07)	-.07	-.11 **	-.06	-.07	.07	.28 **	.23 **	.29 **	.15 **	.19 **	—	
12. 物価高対策として各家庭に現金を給付する	3.70 (1.20)	-.03	-.01	.03	.01	.14 **	.14 **	.15 **	.18 **	.21 **	.30 **	.44 **	—

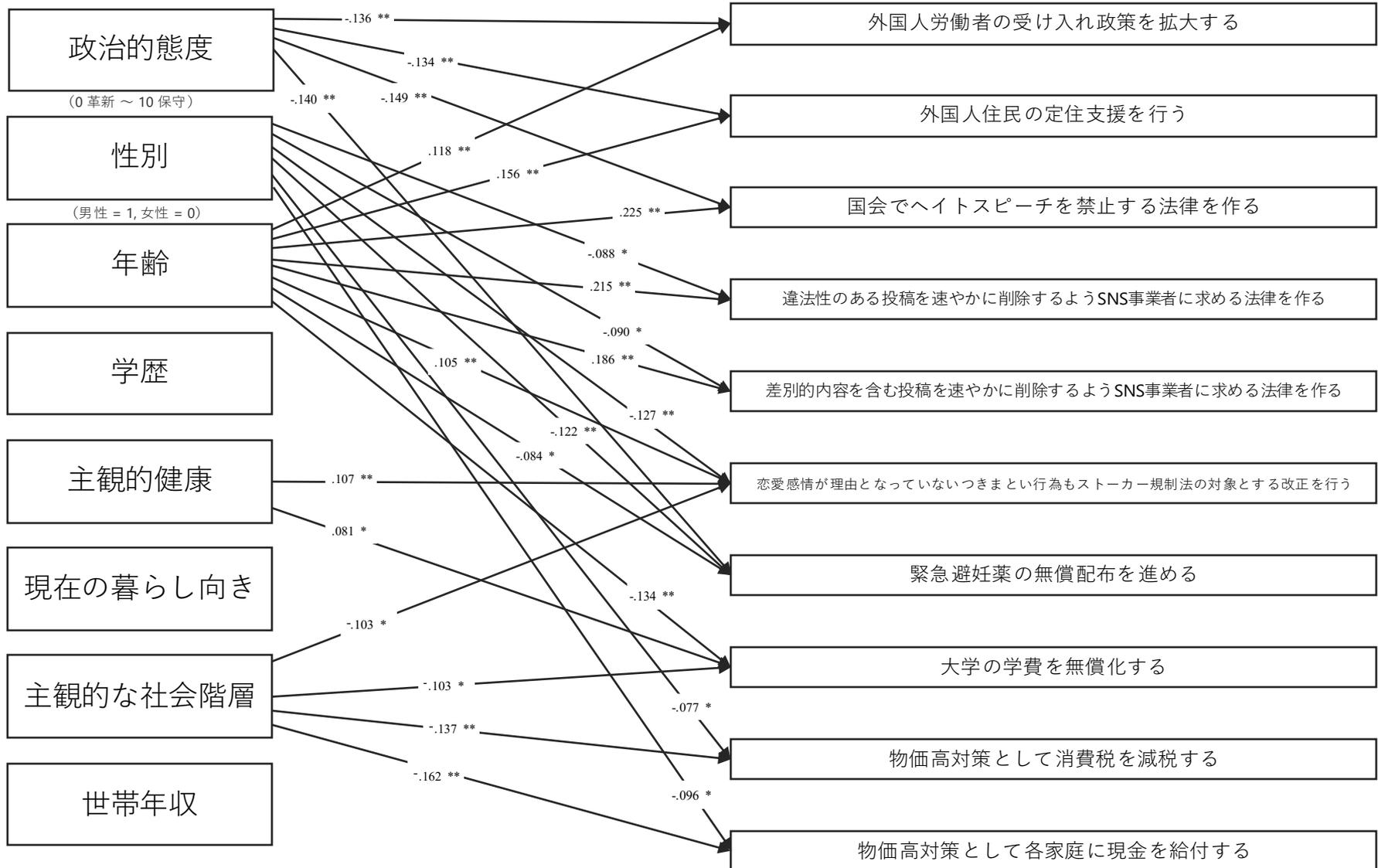
$n = 679$ (「答えたくない」を選択した場合分析から除外), ** $p < .01$, * $p < .05$

付録11：寛容性に対する政治的態度と各属性変数の影響（SEM）



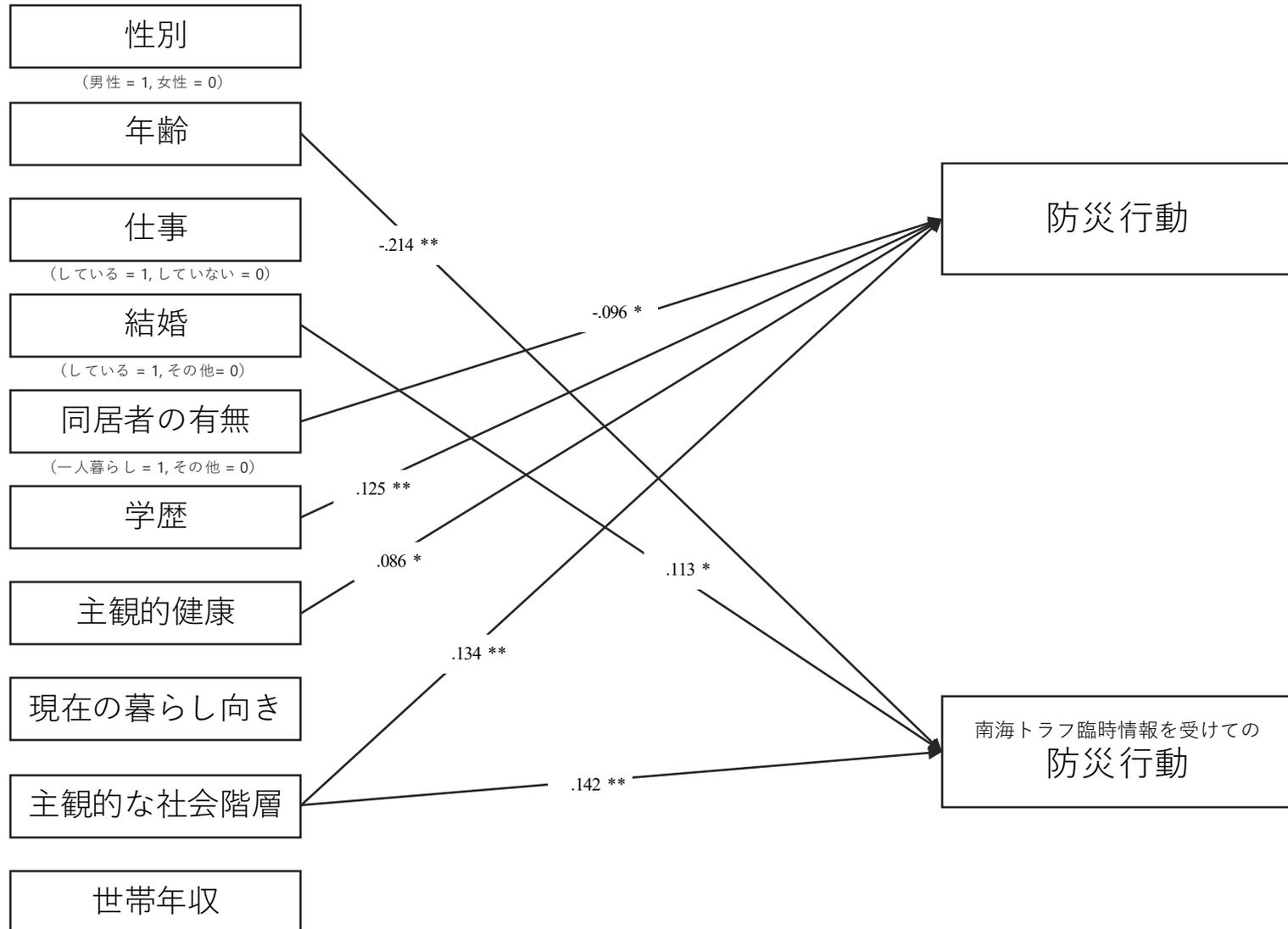
注1) $n = 679$ (※「答えたくない」の回答は分析から除外) ** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$
注2) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録12：政策賛否に対する政治的態度と各属性変数の影響(SEM)



注1) 目的変数のすべての項目間に共分散を設定した。
 注2) $n = 679$ (※「答えたくない」の回答は分析から除外), ** $p < .01$, * $p < .05$
 注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録13：防災行動に対する各属性変数の影響（SEM）



注1) 目的変数のすべての項目間に共分散を設定した。

注2) $n = 846$, $** p < .01$, $* p < .05$

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録14：米不足に対する購買行動への各属性変数の影響

米不足に対する購買行動の有無¹⁾を 目的変数とする二項ロジスティック回帰分析

変数名	オッズ比
性別 (男性 = 1, 女性 = 0)	.715 *
年齢	.984 **
仕事 (している = 1, していない = 0)	.967
結婚 (している = 1, その他 = 0)	1.289
同居者の有無 (一人暮らし = 1, その他 = 0)	1.212
学歴	.567 *
主観的健康	1.075
現在の暮らし向き	.969
主観的な社会階層	1.311 *
世帯年収	.939
R^2	.067 **
χ^2 値	30.4 *
df	10

$n = 826$ (「答えたくない」と回答した人は分析から除外), ** $p < .01$, * $p < .05$

¹⁾ コーディング：「0 = 買わなかった/わからない, 1 = 買った/買おうとしたが買えなかった」。